

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二

- 十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
 - 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
 - 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
 - 五 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
 - 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
 - 七 汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
 - 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
 - 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
 - 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
 - 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ狂惑シタル者
 - 十二 妄リニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
 - 十三 私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 - 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及厠場等ヲ毀損シタル者
 - 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
 - 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三 渡船橋梁其他ノ通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放テ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身体ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害トナル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者
 - 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
 - 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
 - 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
 - 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
 - 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
 - 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
 - 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

刑法 違警罪

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
十七公園ノ規則ヲ犯シタル者
十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違懲罪ヲ犯シタル者
ハ其罰則ニ從テ處斷ス

刑法附則之部

明治十四年十二月十九日御布告第六十七號

刑法附則別冊ノ通知定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

刑法附則目錄

- 第一章 主刑執行
- 第二章 監視
- 第三章 假出獄及ヒ特別監視
- 第四章 刑事裁判費用
- 第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴シシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス
 元始祭 ○孝明天皇祭 ○紀元節 ○春季皇靈祭 ○仁孝天皇祭 ○神武天皇祭
 六月大祓 ○秋季皇靈祭 ○神宮神嘗祭 ○天長節 ○後桃園天皇祭 ○新嘗祭
 光格天皇祭 ○十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ
 刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前 ○犯罪ノ地 ○犯人住居ノ地

第九條 徒刑ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待

刑法附則 主刑執行監視

ヲ渡船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居ス

ルヲ乞フ時ハ之ヲ許ス可キ得但し其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケ

シム若シ己ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ嶋地ニ於テ直

チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚監獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ

罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視

セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居

ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ

付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ

原本ヲ附ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所

ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅

券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時

ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ ○犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警

察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ識聞カセ監視ノ票ヲ

交付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラルタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受リ可シ但疾

病又ハ己ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ ○二 酒宴

遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス ○三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントス

ル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ ○四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ己ムコトヲ

得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ

第三十條 記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ

往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與スヘシ ○犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示

シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏

ノ認印ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出スヘシ

刑法附則 監視假出獄及ヒ特別監視

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄内ノ別房ニ留置シ工業ヲ

爲サシ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄内ノ別房ニ留置セタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得タ

ル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯

シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ并ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘ

シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悞改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ具申シ

内務司法兩卿ノ命ヲ受ケ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例

ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其犯罪ノ行狀及ヒ刑名人獄ノ年月ヲ記載シ假

ニ出獄ヲ許サレシコトヲ内務司法兩卿ニ具申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其証票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄証票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日 ○二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス

事 ○三 假出獄又ハ特別監視ニ付ス可キ事 ○四 假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出

獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マンコトスル時ハ

警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ

一人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三

十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但

疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ ○二 酒

宴遊興ノ席ニ會シ又ハ羣衆ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス ○三 事故アリテ住居ヲ轉移セントス

ル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス ○四 往復一日程ヲ過

ル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄証票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨ

リ証票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ ○主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於

テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別

房ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿

料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ ○止宿料一宿二拾五錢 ○住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅

費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給

シ

第五十條 証人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 証人日稼ヲ以テ生業トスル者ハ治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日
當外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與スヘ
シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之
ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ轉賣シテ他人ノ手ニ在ル
時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムルヲ得

第五十五條 贓物轉賣シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若シハ被害者ヨ
リ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス ○若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル
物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉賣ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典
物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉賣ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トナ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス
可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠
償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若シハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請
求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判己
ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ

之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フヘシ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ
得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更
ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

新舊刑法比較之部

三新舊 明治十四年十二月二十八日御布告第八十一号

法比較

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ニ從フ可シ

第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

新法

第十七

刑罰則及ヒ新舊刑罪比較之部

舊法

二百九十一

斷ス可シ

第一條 凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス○第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス○第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未満ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス○第四條 法ニ照シ律ニ照ラシ若クハ違令違式ニ照ラシ處斷ストアリ及ヒ咎メ可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス○第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス○第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス○第七條 前條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス但始審裁判所所在ノ地ヲ除ク外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

陸海軍刑法之部

(五)陸軍 陸軍刑法目錄

- 第一編 總則
 - 第一章 法例
 - 第二章 加減例
 - 第三章 數人共犯
- 第二編 重罪輕罪
 - 第一章 反乱
 - 第二章 擅權
 - 第三章 暴行
- 第二章 刑例
 - 第四章 數罪俱發
 - 第六章 未遂犯罪
- 第二章 抗命
 - 第四章 辱職
 - 第六章 侮辱

第八章 逃亡

第七章 違令

第九章 詐偽

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス 若シ所犯頒布以前ニ在テ未ク判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス○第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官十官下十諸卒ヲ謂フ○第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ體法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ○第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任フル者ヲ謂フ○第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ○第七條 「官」ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ト同シ上等卒及ヒ下等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス○第八條 將校同等ノ官人ハ總テ將校ニ同シ○第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生征ハ總テ軍人ニ同シ○第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ○第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特別アル者ハ其限ニ在ラス○第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第一項第九十五條第百一十一條第百一十二條第百一十三條第百一十四條第百一十五條第百一十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非ラスト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス 第百一十六條第百一十七條第百一十八條

第十七

陸軍刑法之部

條第一百十九條第百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス○
第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五十
七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト
雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止ル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ
處斷ス○第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章
ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラズ

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス 主刑ハ之ヲ宣告ス 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣

告スル者ト宣告セサル者トシテ完ム

第十六條 左ニ掲クル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期流刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁錮
- 九 輕禁錮

第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮
- 第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治産
- 五 監視
- 六 沒収

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ之ヲ銃殺ス○第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命

令アルニ非サレハ之ヲ行フコト得ス 軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時
ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコト得○第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分ク島地ニ發遣シ定
役ニ服ス 有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス○第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分
ク島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス 有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス○第二十
三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス 重懲役ハ九年以上十一年以下ト爲ス○第二十
八年以下ト爲ス○第二十四條 禁錮ハ獄ニ入レ定役ニ服セス 重禁錮ハ九年以上十一年
以下ト爲ス○第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役
ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス 禁錮ハ重輕ヲ分ク十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本
條ニ於テ其長短ヲ區別ス○第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第
十九條第二十一條第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之
ヲ適用ス○第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セ
ズ禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス○第二十八
條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス○第二十九條 重罪ノ刑
ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ終身公權ヲ剝奪ス○第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官
職ヲ褫奪ス 下士上等卒軍屬其他ノ官責此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑
ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ其官職ヲ失フ○第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ
用ヒテ其刑期間公權ヲ行フコト停止ス○第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條第
三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ
記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス○第三十三條 下士上等卒ハ此
刑法及ヒ普通刑法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失
フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルコト得
○第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ
第十七 陸軍刑法之部 二百九十七

主刑ヲ免シ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス○第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重輕減ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲クル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス○第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

三 有期徒刑

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

三 有期徒刑

五 輕懲役

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス 輕禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス○第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劊官ヲ附加ス○第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時又四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス 禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス

四 重禁錮

二 無期徒刑

一 死刑

三 有期徒刑

五 輕禁錮

但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス 若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス○第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサル者ハ之ヲ除棄ス○第四十三條 劊官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス○第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不倫罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特別アル者ハ此限ニ在ラス○第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法劊官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト劊官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ劊官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百十九條ニ掲クル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非ラサル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス○第四十八條 軍人ト軍人ニ非ラサル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非ラサル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此

第十七 陸軍刑法之部

限ニ在テス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ビ擅ニ兵器ヲ執リ反乱ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀重キ者ハ無期流刑ニ處ス 諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍事ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス 附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第五十一條 軍人反乱ヲ爲スト謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ○第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ラニ鐵櫃ノ官更ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス○第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス○第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗号記号ヲ開示シ其他軍機事情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス○第五十五條 軍人敵圍ヲ受クル地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス○第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス○第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス○第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ糧秣兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰闘ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林涼車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス○第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

下

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ遺言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス○第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス 敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ○第六十二條 軍人前數條ニ掲グル處ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス 其隱謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス○第六十三條 軍人前數條ニ掲グル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲グル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰闘ノ所爲ヲ止メサル者ハ第十七條 陸軍刑法之部 三百一

死刑ニ處ス○第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ己ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス○第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス 堡壘ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ○第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス 若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス○第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス○第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ劊官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ○第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス 上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ○第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス○第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス 首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之

ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス○第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁錮ニ處ス○第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第八十五條 軍人多衆結合シテ相闘毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケル者ハ重禁錮ニ處ス○第八十七條 軍人戰場ニ於テ劊傷人ノ衣服財物ヲ剝奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス○第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬪ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁鐵軍電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テテ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス○第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス 其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス○第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ乘毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス 其官給ニ係ル物品ヲ乘毀スル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス○第九十一條 哨兵衛兵安リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第九十二條 軍人操練ノ際若クハ禮砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第十七 陸軍刑法之部

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ○第九十四條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ○第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第九十八條 軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 其他ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 其他ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ一年以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ○第一百二條

軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ号報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第一百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍料ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第一百四條 司令官命令ニ從フコトヲ得サル時部署若クハ其命ヲ受ル、所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 其事變ニ因リ暗号記号ヲ改メ直チニ之ヲ申報セサル者亦同シ○第一百五條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍事ノ機密ヲ洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第一百六條 軍人允許ヲ得テ地方ニ歸ム、故ナク歸着ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス 戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テハ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス 歸休兵又ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス○第一百九條 軍人反乱ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第一百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若シハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第一百十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁錮ニ處ス○第一百十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 看守護送者之ヲ

犯ス時ハ輕禁錮ニ處ス○第百十四條 軍人前二條ニ掲クル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス○第百十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第百十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿タサル者ハ一等ヲ減ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第百十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕禁錮ニ處ス○第百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕禁錮ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス 其他ノ犯人ハ第百十七條第百十八條ニ照シテ處斷ス○第百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス○第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痕及ヒ身體強弱ノ偽証ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス 其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ○第百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、ヲ圖ル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ

召集ヲ免ル、ヲ圖ル者亦同シ

海軍刑法之部

(六)海軍 海軍刑法目錄

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一節 刑名

第三節 附加刑處分

第五節 假出獄

第七節 復權

第三章 加減例

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第七章 數罪俱發

第九章 未遂犯罪

第二編 重罪輕罪

第一章 反乱

第三章 抗命

第五章 侮辱

第七章 擅權

第十七 海軍刑法之部

第二章 刑例

第二節 主刑處分

第四節 刑期計算

第六節 期滿免除

第四章 不論罪及ヒ減輕

第二節 自首減輕

第六章 加減順序

第八章 數人共犯

第十章 名稱例

第二章 辱職

第四章 暴行

第六章 燒燬毀壞

第八章 違令

第九章 逃亡

第十章 詐偽

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪 二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス 若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷ス○第三條 第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百條第一百四條第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第三十一條第三十二條ニ記載シタル罪犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス 效唆若シハ幫助シテ第三百三十三條第三百三十四條第三百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シテ論ス○第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若シハ陰謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス○第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照ラシ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第三百三十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラズ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス○第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期徒刑

五有期流刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁獄

九輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

九剝奪公權

二剝官

三停止公權

四禁治産

五監視

六沒収

第六條

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス○第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法術ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ○第十二條 海軍法術ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス 若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得○第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ○第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ○第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム○第十七條 剝

第十七

海軍刑法之部

奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ○第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス 軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ○第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス 其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減刑スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス○第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職ヲ免セス○第二十一條 禁錮ニ處セテレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス○第二十二條 禁治産ハ普通刑法第三十五條第三十六條ノ例ニ同シ○第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免ジテ止テ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ○第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス○第二十五條沒収ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス○第三十一條 第九十九條第百四條第百五條第百六條第百七條第百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

三有期徒刑

五輕懲役

一死刑

三有期徒刑

五輕懲役

一死刑

三有期徒刑

五輕懲役

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス 輕禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス○第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス 禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス○第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿タサル時ハ之ヲ除棄ス○第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス 輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラズ

第四章 不論罪及ヒ減輕

第十七 海軍刑法之部

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ○第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分クテ所犯狀情原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得 其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ○第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第百條第百二條第百三條ノ例ニ同シ○第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス○第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若シハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官

職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第百三十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス○第四十八條 軍人ト軍人ニ非ラサル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非ラサル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ○第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ 軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ○第五十二條 司令官ト稱スルハ數艘又ハ一艘ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若シハ數艘ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ○第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス○第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若シハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ○第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ビ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

第十七 海軍刑法之部

一 首魁教唆者及ヒ群集ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁錮ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ○第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス○第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル緊要ノ圖書ヲ敵ニ付シ若クハ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ又ハ暗号軍機軍情ヲ洩洩シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍需ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ欲乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十三條 軍人敵ノ爲メ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス○第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走シメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス○第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス○第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス 其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス○第七十條

軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降り又ハ其艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス○第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若クハ兵隊ヲ卒ヒ遁走シタル者ハ死刑ニ處ス○第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナリ衆ニ先ヲテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス○第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲サル者ハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

一 敵前ニ在テ我船舶ヲ救ス可キ時故ナク其事ヲ爲サル者亦同シ○第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲ救フシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス○第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ發棄シタル者ハ左ノ

第十七

海軍刑法之部

區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一年以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サハル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス○第八十四條 軍人職務ニ因リ與リ知ル所ノ軍機若クハ軍事ニ關スル秘密ノ圖書ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第八十五條 司令官内外國ノ船舶欄岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セザル者ハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ欄岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ欄岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處ス

ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス將校ハ剝官ヲ附加ス○第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ○第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス 戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ○第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期徒刑ニ處ス○第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期徒刑ニ處シ其他ノ者ハ有期徒刑ニ處ス 首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期徒刑ニ處シ其他ノ者ハ有期徒刑ニ處ス○第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁錮ニ處ス○第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期徒刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁錮ニ處ス 首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期徒刑ニ處シ其他ノ者ハ有期徒刑ニ處ス○第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一年以上一年

以下ノ重禁錮ニ處ス○第九十七條 軍人多衆結合シテ相闘毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ判官ヲ附加ス○第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁錮ニ處ス○第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第百條 軍人上官ヲ罵詈訾若クハ侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈訾若クハ侮辱シタル時ハ一等ヲ加フ○第一百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈訾若クハ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈訾若クハ侮辱シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
第百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス 二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス
第百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス○第一百七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰闘ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス○第一百八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄

毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス○第一百九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第百十條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰闘ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス○第一百十一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令

第百十二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ卒ヒ故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ判官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ判官ヲ附加ス

第百十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ擱岸坐蓐其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ判官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ判官ヲ附加ス

第百十四條 將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十七 海軍刑法之部

三其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス
第百十六條 軍人艦船ノ欄岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タズ其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラズ若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第百十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
二軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三其他ノ場合ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第百十八條 軍人戰鬥ノ号報アル時故ナク其集合場ニ來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第百十九條 軍人允許ヲ得テ地方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百二十條 歸休若クハ非職ノ軍人徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十一條 新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 司令官事變ニ因リ已ムコトヲ得ズ暗号記号ヲ改メ又ハ配置セラレタル地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百二十三條 軍人命ヲ受ケズ艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壊若クハ危險ニ罹タル船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在ラス○第百二十四條 守兵妄リニ銃砲ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百二十五條 軍人禮砲号砲ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝填シテ發射シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス 此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス○第百二十六條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百二十七條 軍人敵前軍中ニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス○第百二十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス 看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁錮ニ處シ○第百二十九條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁錮ニ處ス○第百三十條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス○第百三十一條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十一月以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス○第百三十二條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第百三十三條 軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス

一敵前ニ在テハ輕禁錮ニ處ス
二軍中ニ在テハ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加
第十七 海軍刑法並賭博犯處分規則之部 三百廿一

三其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ
 附加ス
 第三百三十四條 軍人四人以上和黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕禁錮ニ處ス
 二軍中ニ在テハ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ六月以上三年以下ノ
 輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 三其他ノ場合ニ在テハ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他
 ノ者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第三百三十五條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス
 第十章 詐偽
 第三百三十六條 軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ
 戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス○第三百三十七條
 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ
 致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス○第三百三十八條 海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痕及ヒ身體
 強弱ノ偽証ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其囑託ヲ爲シタル軍人亦同
 シ○第三百三十九條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ル、トテ圖リタル者ハ一
 月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

賭博犯處分規則之部

七)賭博 明治十七年一月四日御布告第一号

犯處分規則

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ
 處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ
 行ハシム

右奉 勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ科料ニ
 處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ補助ヲ爲シタル者亦同シ 博徒ニシテ黨類ヲ
 招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ
 懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ科料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ
 前項ニ依テ處分ス○第二條 賭具及ヒ賭場ニ現在スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒
 入ス○第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコト
 ナ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帶スヘシ○第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視
 廳總監府知事 東京府 縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

富籤ニ關スル犯罪

(八)富籤ニ關スル罰則

明治十五年五月廿四日御布告第二十五号

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ
 五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス○第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタル
 ト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰
 第十七 賭博犯處分規則及ヒ富籤ニ關スル罪 三百廿三

金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ○第三條
 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シ
 タル刑期金額ニ下ルヲ得ス○第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル
 所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス○第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官
 ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス○第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收
 ス 自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル
 右奉 勅旨布告候事

○第十八 學制之部

(一) 教育 明治十三年十二月廿八日御布告第五十九号
 令 明治十二年九月第四十号布告教育令左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナ
 シ皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ○第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校
 農學校商業學校職工學校其他各種ノ學校トス○第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授
 クル所ニシテ其學科ヲ修身讀書習字算術地理歴史等ノ初步トス土地ノ情況ニ隨ヒテ野畫
 唱歌体操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲メニハ裁縫等ノ科ヲ設ク
 ヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ修身讀書習字算術地理歴史ノ中地理歴史ヲ減スルヲ得
 得○第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス○第五條 大學校ハ法學理學醫
 學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス○第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス○第七
 條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス○第八條 農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル
 所トス商業學校ハ商賣ノ學業ヲ授クル所トス職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所トス以
 上數條掲ケル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルヲ得ヘシ○第九條 各町村ハ府
 知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ數
 箇ノ小學校ヲ設置スヘシ但本文小學校ニ代ルヘキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ認可ヲ
 經タルモ別ニ設置セサルモ妨ナシ○第十條 各町村ハ學務ヲ幹理セシメンカ爲メニ小
 學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學務委員ヲ置キ戸長ヲ以テ其員ニ加フヘシ但人員
 ノ多寡給料旅費職務取扱諸費等ノ有無及其額ハ區町村會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ
 經ヘシ○第十一條 學務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若クハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其
 中ニ就テ之ヲ撰任スヘシ但シ薦舉ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘ

○第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ○第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ルハケ年ヲ以テ學齡トス○第十四條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ○第十五條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學科三ケ年ノ課程ヲ卒業サル間已ムヲ得サル事故アルニアラサレハ少クモ每年十六週日以上就學セシメサルヘカラス又小學科三ケ年ノ課程ヲ卒業タル後ト雖モ相當ノ理由アルニアラサレハ毎年就學セシメサルヘカラス但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ○第十六條 小學校ノ學期ハ三ケ年以上八ケ年以下タルヘク授業日數ハ每年三十二週日以上タルヘシ但授業時間ハ一日三時ヨリ少カラズ六時ヨリ多カラサルモノトス○第十七條 學齡兒童ヲ學校ニ入レヌ又巡回授業ニ依ラズシテ別ニ普通教育ヲ授ケントスルモノハ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ但郡區長ハ兒童ノ卒業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試験シシムヘシ○第十八條 小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏クシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ授ケントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ○第十九條 學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置スルモノヲ私立學校トス○第二十條 公立學校幼稚園書籍館等ノ設置廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ○第二十一條 幼稚園書籍館等ノ設置ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ○第二十二條 町村立私立學校幼稚園書籍館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ○第二十三條 小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之ヲ許可セントスルモハ其意見ヲ付シテ文部卿ノ認可

ヲ經ヘシ○第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ○第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルモハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルヲ得ヘシ○第二十六條 公立學校ノ敷地ハ免稅タルヘシ○第二十七條 凡ソ學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルヲ得ス○第二十八條(削除)○第二十九條(同上)○第三十條(同上)○第三十一條(同上)○第三十二條(同上)○第三十三條 各府縣ハ小學校教員ヲ發生センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ○第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業生ニ試験ノ後卒業證書ヲ與フヘシ○第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フ者アラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ○第三十六條(削除)○第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上タルヘシ但品行不正ナルモノハ教員タルヲ得ス○第三十八條 小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有スルモノトス但本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモノハ其府縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ○第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ○第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムヲ得ス○第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實況ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ○第四十二條 凡ソ學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルヲ得ス但小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ○第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ取ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ○第四十四條 凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歷タルモノニアラサレハ入學スルヲ得ス○第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルヲ得ス○第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰或ハ加フヘカラス○第四十七條 生徒試驗ノ時ハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルヲ得ヘシ○第四十八條 町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ○第四十九條 町村

立小學校教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ○第五十條
各府縣ハ土地ノ實況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工學校等ヲ設置
スヘシ

(二)中學

明治十五年十二月五日御布告第五十六号
小學校設置區域ノ外敷町村聯合シテ中學校等ヲ設置スルトキハ特ニ其區域ニ學務委員ヲ
置キ學務ヲ幹理セシムルコトヲ得但教育令第十條但書及第十一條第十二條第四十八條ハ
本文學務委員ニ適用スヘシ
右奉 勅旨布告候事

(三)商業
學校通則

明治十七年一月十一日文部省御達第一号
商業學校通則左之通相定候條此旨相達候事

商業學校通則

第一章 總則

第一條 商業學校ハ此通則ニ遵ヒ商ノ學業ヲ教授スル所トス○第二條 商業學校ハ之ヲ
分テ第一第二ノ二種トス第一種ハ主トシテ躬ヲ善ク商業ヲ營ムヘキ者ヲ養成スル爲メ上
款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス第二種ハ主トシテ善ク商業ヲ處理スヘキ者ヲ養成スル爲
メ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス○第三條 商業學校ニ於テハ商業諸般ノ取引事務ヲ
演習スルニ足ルヘキ商業實習室ノ準備アルヲ要ス

上款

第二章 學科目

第四條 第一種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

- 修身 讀書 習字 算術 簿記 商業書信
- 商業地理 商品 商業經濟 商業實習

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セズシテ特ニ銀行、爲替、運
輸、保險、會社、圖畫、物理等ノ某科目ヲ置キ又英、佛、獨、支那、朝鮮等ノ某語ヲ置クヲ得

第三章 修業年限日數及時數

第五條 第一種商業學校ノ修業年限ハ二箇年トス但此年限ヲ一年以内増加スルヲ得○
第六條 第一種商業學校ノ授業日數ハ少クトモ毎年三十二週ヲ下ルヘカラス○第七條
第一種商業學校ノ授業時間ハ每週三十時ヲ以テ度トス

第四章 入學生徒ノ資格

第八條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十三年以上トス
○第九條 第一種商業學校ニ入學スル生徒ハ小學中等科卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少
クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ小學中等科ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

讀書 習字 算術

第五章 教員ノ資格員數

第十條 第一種商業學校ノ教員中少クトモ一名ハ文部卿ノ認可ヲ經タル者ヲ以テ之ニ充
テ主トシテ重要ノ學科目ヲ擔任セシムヘシ

下款

第六章 學科目

第十一條 第二種商業學校ノ學科ハ左ニ掲クル諸目トス

- 修身 和漢文 習字 算術代數 簿記 商業書信
- 商業地理 圖畫 商品 商業經濟 商業史 商事法規
- 商業實習 英語

但土地ノ情況ニ由リ本文某科目ノ程度ヲ斟酌シ若クハ斟酌セズシテ特ニ銀行、爲替
運輸、保險、會社法、海上法、契約法、關稅、統計、物理、化學、博物、幾何、機械、工藝誌等ノ某科

第十八 學制之部

目ヲ置キ又本文英語ノ外若クハ英語ニ代ヘテ佛獨支那朝鮮等ノ某語ヲ置クヲ得

第七章 修業年限日數及時數

第十二條 第二種商業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但此年限キ一年以内増加スルコトヲ得

第十三條 第二種商業學校ノ授業日數及授業時間ハ第六條及第七條ニ準ス

第八章 入學生徒ノ資格

第十四條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ品行善良體質強健ニシテ年齡十六年以上ト

ス○第十五條 第二種商業學校ニ入學スル生徒ハ初等中學校卒業ノ學力ヲ有スル者若クハ少クトモ左ニ掲クル科目ニ就テ初等中學校ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

和漢文 算術代數 地理 物理

第九章 教員ノ資格員數

第十六條 第二種商業學校ノ教員中少クトモ二名ハ第十條ニ準ス

明治十七年一月廿六日 文部省御達第貳号

(四) 中學校通則

中學校通則左ノ通相定候條此旨相達候事

中學校通則

第一條 中學校ハ此通則ニ遵ヒテ之ヲ設置シ中人以上ノ業務ニ就ク者若クハ高等ノ學校ニ入ル者ノ爲メニ忠孝露倫ノ道ヲ本トシテ高等ノ普通學科ヲ授クヘキモノトス○第二條 中學校ノ教則ハ文部省明治十四年七月第二十八号達中學校教則大綱ニ據ルヘキモノトス○第三條 中學校長ハ品行端正ニシテ學校管理ノ任ニ堪フヘキ學力材幹アル者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス○第四條 中學校ハ教員中少クトモ三人ハ中學校師範學科ノ卒業證書又ハ大學科ノ卒業證書ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス但本文ノ證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ハ文部卿ノ認可ヲ經テ之ニ代フルコトヲ得且高等中學校ヲ置カスニテ農業工業商業等ノ專修科ヲ置キ又ハ初等中學校ノヨリ置

クモノハ文部卿ノ許可ヲ經テ本文ノ制限ヲ斟酌スルコトヲ得○第五條 中學校ハ修身其他諸科ノ教授上必須ノ圖書及博物物理化學等ノ器械標本類ヲ備フヘキモノトス○第六條 中學校ハ生徒ヲ教授スルニ足ルヘキ教場物理化學ノ試驗室體操場及生徒ノ扣所職員ノ詰所等ヲ設クヘキモノトス但生徒ヲ寄宿セシムルモノハ寄宿舎ヲ設クヘキモノトス○第七條 中學校ノ經費トシテ供給スヘキ金額ハ前條々ノ準備ヲ辨スルニ足ルヘキモノトス○第八條 中學校設置廢止等ノ手續其府縣立ニ係ルモノハ文部省明治十四年一月第四号達府縣立學校等設置廢止規則ニ據ルヘシ其町村立私立ニ係ルモノハ該府縣ノ町村立私立學校等設置廢止規則ニ據ルヘキモノトス

明治十七年二月十五日 文部省御達第三号

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計フヘシ此旨相達候事

(五) 學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計フヘシ此旨相達候事

第十九 兵制之部

(一) 徵兵 明治十六年十二月廿八日御布告第四十六号

徵兵令別冊之通改正ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

徵兵令

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服スヘキモノトス○
 第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス○第三條 常備兵役ハ別テ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス○第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス○第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス○第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ○第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ 海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ

就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス○第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ○第十條 年齡二十歲ニ滿タスト雖モ滿十七歲以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得○第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム 其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアルヘシ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ○第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ○第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ○第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ○第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾メハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル○第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現兵役ノ兄或ハ第一人

第二項 現役中死歿又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戶主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第十九

兵制之部

第四項 戶主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戶主

第十八條 左ニ掲ケル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年

以內徵集ヲ猶豫ス○第二十條 左ニ掲ケル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトト問ハス

復點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集

スルコトアル可シ

第一項 官吏判任及ヒ戶長

第二項 教導職試補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政

官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ○第二十二條 左ニ掲ケル者ハ第十七條ニ照

シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戶主及ヒ附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處

セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歲未滿ノ戶主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル

ニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戶主ヲ罷メ年齡六十歲以上ノ者ニシテ

其跡ヲ繼キタル戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主及ヒ其戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戶主癡疾又ハ不具等ニシ

テ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戶主

ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戶主

第七項 年齡六十歲未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ

非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ラスシテ戶主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戶主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサ

ルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戶主ノ死亡跡若クハ戶主ヲ罷メタル

跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戶主

第九項 戶主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戶主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者

ト雖形第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶

豫スルノ限ニ在ラス

第十九 兵制ノ部

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從テ其軍管ニ從テモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從テモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從テモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

○第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

○第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス 府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

○第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

○第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應ジ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉ケル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

○第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年問之ニ充ツ其期限內現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス 補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

○第三十一條 補充員ニシテ其期限內徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徵員トス

○第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年問其事故ノ存スル者及ヒ第

一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年問ニ該條ニ掲ケル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

○第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主本人戶主ナレハ自身以下ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ

○第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ

若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

○第三十六條 第三十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ

○第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戶主)ヲ以テ証人ト爲シ八月十五日迄ニ戶主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出ヘシ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戶長ニ差出スヘシ

○第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ衣食等ヲ給ス

○第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戶長ニ届出ヘシ其事故止ムトキ亦同シ

○第四十條 第三十九條ニ掲ケル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先テ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タス

第十九 兵制之部

徵集ス○第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年檢査ヲ遂ケ第四十條ニ掲グル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス○第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日ル者ハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス○第四十三條 第二十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ檢査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス○第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス○第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

(徵兵區域表ハ別ニ載之)

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

明治十七年三月四日陸軍省御達甲第十五号

昨十六年十二月第四十六号布告ヲ以テ徵兵令御改正相成候ニ付テハ目下豫備兵服役ノ者ハ同令第三條及第四條ニ據リ左ノ通可相心得此旨相達候事

(二)目下豫備兵服役者ハ徵兵令第三條ニ據ル

目下豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム但定期ニ非スシテ臨時豫備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

(三)戒嚴令

明治十五年八月五日御布告第三十六号

戒嚴令別冊ノ通制定ス
右奉 勅旨布告候事

別冊

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス○第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス○第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルヲ得○第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得○第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス○第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス

第十九

兵制之部

可シ但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ○第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルヲ得○第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ○第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ○第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

第一編

第一章 皇室ニ對スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第二章 國事ニ關スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第二編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第八節 決水ノ罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナ

第二節 毆打創傷ノ罪

第七節 脅迫ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

○第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スルヲ得ス○第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スル

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スル

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押収スル

第四 郵信電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海通路ヲ停止スル

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スル

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢査スル

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムル

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受ケルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス○第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

(四) 徵發令 明治十五年八月十二日御布告第四十三号

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動かスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス○第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ○第三條 左

第十九 兵制之部

記列スル官署ハ徵發區域ニ在リテハ其ノ權ヲ有ス
 一 陸軍卿海軍卿鐵道司令官及鐵道守府長官
 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ムルハ左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ
 - 府縣
 - 町村
 - 郡區
 - 會社
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ機車ハ
 - 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル○第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシ○第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナシ其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス○第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス○第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フニナリ之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ擔償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ○第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏置シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得○第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領証票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ○第十二條 徵發スヘキモノ左ノ如シ

- 一 米麥稗藜鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍廬圍及ヒ倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道機車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
 - 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工礦夫洗濯人ノ類
 - 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
 - 四 水車搗春ノ類
 - 五 病院
 - 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
 - 一 皇族所用ノ車馬
 - 二 外國公使館并領事館ニ屬スル車馬
 - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
 - 四 郵便用ノ車馬
 - 五 公認セラレタル種牛種馬
 - 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
 - 一 公務ニ屬スル麻署
 - 二 皇族ノ邸宅
 - 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
 - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校并同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書籍館
 - 七 病院盲啞院樂院
 - 八 學校但陸戰各國地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス○第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得テ但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得○第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナル旅店等ハ此限ニ在ラス○第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ敷ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム○第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ○第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルヲ許サス庭園倉庫亦同シ○第二十二條 宿舍庭園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス○第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム○第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ○第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其探業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得○第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ探業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニアラス○第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ探業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル○第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ヲ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サズルコトヲ得○第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ム

ル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス○第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス○第三十一條 賠償ノ平時ト戰時トヲ論ビ其時在之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス○第三十二條 賠償ノ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ○第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス 其毀損ハ持主若クハ探業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ探業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

七日間

評價委員ノ告示スル時日間

二 地所

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス○第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ヲ探業者トテ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ノ○第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス○第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス○第三十八條 第三十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス○第三十九條 兵制之部 三百四十五

十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム○第四十條
第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス○第四十一條 第十二條第
六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令 アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上
ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿チサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃
三 出船及ヒ航路ノ定メナクテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其
賠償金額ニ就キ供給者ト熱議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船費及ヒ船舶
ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス○第四十三條 第二十六
條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料航船費ニハ第四十二條ノ損料トス但船
橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス○第四十四條 第十二
條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス○第四十五條
第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價
若シハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熱議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス○第
四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタ
ルトキニ限り賠償ニ其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス○第四十七條 第十二條第九項ノ徵
發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若シハ相當ノ損料ヲ賠償ス○第四十八條 第十三條第一
項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若シハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就
キ供給者ト熱議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス○第四十九條 第十三條第二項
ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ニ適用ス○第五十條 第十三
條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償ス全ク明渡シタルトキハ第三

(五) 徵發

費意納者處分方ニ付御布告

明治十六年八月八日御布告第三十一號

十九條ノ例ニ從ス○第五十一條 徵發ヲ拒メ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ
及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス○第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶
會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二年以上以下ノ輕禁錮ニ處シ或拾圓以上百圓以
下ノ罰金ヲ附加ス其解意ニ出ルモノハ或拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス○第五十三條
徵發書ヲ出スル權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シ
タルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ別官ヲ附加ス

(六) 陸軍
武官結婚條例

明治十四年五月三日陸軍省御達甲第十三號

陸軍武官結婚條例別紙之通相定候條此旨相達候事

別冊
陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ
家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ遵守セシム若シ偶配其匹ヲ擇ハズ之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其
品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ヲ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍
テ左ニ其制限ヲ設ク○第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ
勅諭ヲ仰キ准テ官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受ク○第三條 下士平常備服役中ハ
結婚スルヲ許サス然レハ再復役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管
第十九 兵制之部
三百四十七

長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵并會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒ニ在テハ常備服
 役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得○第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ
 第一号書式ニ照シ出願スヘシ○第五條 將官并ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以
 上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ
 後備軍使府縣駐在官與書スヘシ○第六條 其妻ルヘキ婦人ハ行狀端生ノ者ニ非レハ結婚
 スルヲ許サズ故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二号書式ニ照シ其婦ノ所在地兵長ノ調印シタル
 身元證書ヲ添フヘシ○第七條 現役士官并ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ
 金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三号
 書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六十圓 中少尉並同等官 六百圓
 准士官 八拾圓 下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシ
 ム其金額ハ下士ニ同シ○第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其妻ルヘキ婦人ノ所有或ハ變
 方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ但公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ル所
 ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム○第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速
 ニ届出ヘシ但家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ○第十一條 家計保護金ヲ還付スル
 ハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時 第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時
 第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ルル時
 第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時
 第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時
 第十二條 結婚願書式并ニ証書式左ノ如シ (願書式等略之)

(七)憲兵 明治十四年三月十一日御達第十一号 憲兵條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事但現今先ッ東京府下ニ其一隊ヲ實施シ他府縣ニハ追テ施行スヘシ

別冊 憲兵條例

第一章 憲兵汎則

第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ觀察シ行政
 警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ内務海軍司法ノ三省ニ兼隸シテ國內ノ安寧ヲ掌ル其戰時若
 クハ事變ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム○第二條 憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣
 ニ配置ス○第三條 憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係
 ル事ハ内務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス○第四條 憲兵ハ其職務ニ關シ警
 視總監府知事縣令 東京府知事并ニ各裁判所檢事ヨリ指示ヲ受ケル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ
 ○第五條 憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮臺條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵守スヘシ
 ○第六條 巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ助力ヲ要求スルコトアラハ直チ
 ニ應援シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助ヲ求ムルコトヲ得○第七
 條 軍人遊歩中途上ニ醉醜暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄シテ人ヲ侮凌ス
 ル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ所爲ニ涉ル者ハ直ニ逮捕シ若シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲ス
 ルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威權アル者ヲ逮捕スヘシ○第八條 若シ草賊一
 揆等ノ萌芽スルアラハ審カニ之ヲ觀察シ其首唱ノ人名及ヒ其人員等ヲ探偵シテ速ニ報告
 スヘシ○第九條 水火災ノ節ハ專テ其防救ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ監
 視スヘシ○第十條 變死人アル時ハ速ニ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲人
 等ノ危害ニ罹ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ○第十一條 憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非レハ
 第十九 兵制之部 三百四十九

漫リコ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ若クハ物件ヲ差押ルヲ得ス但シ現行犯及ヒ現行犯ニ准スル場合ハ此限ニ在ラス○第十二條 憲兵ハ漫リニ兵器ヲ用ルヲ許サス但シ其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ヒ猶豫シ難キ者アル時ハ之ヲ用ルモ妨ケナシ○第十三條 凡ソ何等ノ犯罪タルヲ論ゼス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スルヲ得ス此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ○第十四條 憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒シテ止ムヘキモノハ陸軍懲罰令ニ照シテ之ヲ處分ス但シ事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置撰任

第十五條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ設置シニ大隊ヲ以テ之ヲ編制シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス○第十六條 府内ヲ六區ニ分チ之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ク其六管區ノ配置左ノ如シ

- 第一管區 麴町區 日本橋區 京橋區
- 第二管區 芝區 赤坂區 麻布區 荏原郡
- 第三管區 四谷區 牛込區 南豐島郡 東多摩郡
- 第四管區 神田區 本郷區 下谷區 淺草區
- 第五管區 深川區 本所區 南葛飾郡 南足立郡
- 第六管區 小石川區 北豊嶋郡

第十七條 憲兵ハ左ノ條款ニ據テ其撰擧及ヒ進級ヲ爲スモノトス但左ノ進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシムルノ例ニ在ラス○第十八條 兵卒ハ近衛及ヒ鎮臺ノ常備豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ合格スル者ヲ撰擧ス

第一項 年齡二十二歳ヨリ三十歳迄ニシテ身幹五尺以上ノ者

第二項 讀ミ書キ爲メ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第十九條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六個月ヲ經タル者ヨリ撰任ス但シ時宜ニ依リ他兵科ノ伍長ニシテ其服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任スルヲ得○第二十條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス但シ時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニシテ其服役六箇月ヲ經タル者ヨリ撰任ス但シ時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ其服役一箇年ヲ經タル者ヨリ撰任ス但シ時宜ニ依リ他兵科ノ曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ撰任ス○第二十二條 下副官ハ憲兵曹長以上ノ者ヨリ撰任ス陸軍武官進級條例ニ基キ順次昇級セシムルヲ以テ正例トス但シ時宜ニ依リ他兵科ノ士官以上ヨリ之ヲ撰任スルヲアルヘシ

第三章 職務分掌

第二十四條 憲兵隊長ハ憲兵大(中)佐ノ内一名之ニ任シ憲兵本部長トナリ部下ノ憲兵ヲ統率シ其命令ヲ司リ其勤務ヲ監視シ憲兵本部ノ事務ヲ總理ス○第二十五條 隊長ハ各官廳ノ命令或ハ依頼ヲ受テ其職務ニ服行シ及ヒ其職務ノ事ニ係リテハ直チニ各官廳ト往復スルヲ得○第二十六條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法卿及ヒ警視總監ニ急報スヘシ○第二十七條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直チニ鎮臺兵ノ應援ヲ要求スルヲ得○第二十八條 隊長ハ各大隊長ノ報告ヲ受ケ月毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ係ル者ハ内務卿ニ司法警察ニ係ル者ハ司法卿及ヒ檢事ニ申告シ其行政及ヒ司法ニ係ル者ヲ併セ陸軍卿ニ申報スヘシ但シ海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ○第二十九條 隊長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍曹及ヒ兵卒各一名ヲ具スルヲ得○第三十條 本都次長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整理シ長事故アル時ハ其代理ヲ爲スヲ得○第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スル

第十九 兵制之部

コトヲ得○第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ハ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器掛及ヒ書記ノ勤務ヲ監視ス○第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受テ各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具ルコトヲ得○第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受テ本部中ノ庶務ヲ掌ル○第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部署ヲ定メ其隊ノ事務ヲ總理シ會計ノ事務ヲ監視ス○第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區并ニ各屯所ヲ巡廻シ部下ノ勤務ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具ルコトヲ得○第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受テ一週毎ニ報告書ヲ作リ之ヲ隊長ニ申報スヘシ但非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報スヘシ○第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併テ武器掛及ヒ書記ノ勤務ヲ監視ス○第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受テ各管區并ニ各屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具ルコトヲ得○第四十條 大隊下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受テ隊中ノ庶務ヲ掌ル○第四十一條 中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ中隊ノ指揮ヲ司リ又管區以下ノ會計給與ノ事ヲ管理ス○第四十二條 中隊長ハ時々管區内ヲ巡廻シ部下ノ勤務ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具ルコトヲ得○第四十三條 中隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ大隊長ニ急報シ其指揮ヲ受クルヲ例トス○第四十四條 中隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受テ一週毎ニ報告書ヲ作リ之ヲ大隊長ニ申報スヘシ○第四十五條 小隊長ハ憲兵中尉(少尉)ノ内之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受テ時々各屯所ヲ巡廻シ部下ノ勤務ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具ルコトヲ得○第四十六條 小隊長ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル○第四十七條 小隊長ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ率テ其場ニ臨ミ死体ヲ檢視シ軍人ハ該軍衛ニ通報シ其他ハ親戚故舊ニ引渡スヘシ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ戸長役場ニ引渡スヘシ但シ時宜ニ依リ半隊長ヲ以

テ檢視セシムルコトヲ得○第四十八條 小隊長ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ中隊長ニ急報シ其指揮ヲ受テ○第四十九條 小隊長ハ憲兵曹長之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受テ隊中ノ庶務ヲ掌リ併シテ書記ノ勤務ヲ掌ル○第五十條 半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受テ小隊長ノ在ラサル屯所ニ於テハ古參ノ者其長トナリ小隊長ノ職務ヲ辨理ス○第五十一條 半隊長ハ巡察ヲ派遣スルニ方リ其人員分隊ニ越ル時ハ之ヲ長トナリ分隊長以下ノ勤務ヲ監視ス○第五十二條 本部武器掛ハ憲兵曹長同書記ハ憲兵曹長軍曹ヲ以テ之ニ任シ大隊附武器掛ハ憲兵軍曹同書記ハ憲兵軍曹伍長ヲ以テ之ニ任シ各副官ノ命ヲ受テ事務ヲ分掌ス○第五十三條 分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ巡察及ヒ護送等ノ事ニ當リ分隊ヲ以テスル時ハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務ヲ監視ス○第五十四條 中隊附ノ書記モ亦憲兵伍長之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受テ事務ヲ分掌ス○第五十五條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スル者ナリト雖モ警察上追躡スヘキ者アルニ方リテハ自他ヲ區畫スルノ限リニ在ラス 又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通牒シテ其處分ヲ爲ス渾テ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載シ其報告ニ供ス

明治十四年三月十九日内閣書記官通知

憲兵條例第十七條但書(左ノ)二字衍

明治十六年十一月廿六日御達第五十二号

明治十四年第十一号達憲兵條例中第十七條(左ノ條款)ヲ(第十八條ヨリ第二十三條)ニ改ム

明治十五年十二月二十八日御布告第七十三号

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

右奉 勅旨布告候事

(九)大坂 明治十六年十一月三十日御達第五十三号

置憲兵 自今大坂府下ニ憲兵ヲ設置候條此旨相達候事 但東京憲兵ノ内一中隊ヲ分派ス

第十九 兵制之部

三百五十三

○第二十 外交之部

三百五十四

(一) 外國
取旅方
御達

明治八年十二月內務省御達乙第百五十九号
外國人之内身分等級等有之者内地旅行之節ハ其都度相違來候處自今別段之取扱ヲ要セサルモノハ一々不相違候條免狀ニ記載有之身分ヲ証認シ不都合無之様可取計旨管下其向々へ相達可申此旨相達候事

(二) 外國
以宿泊
御達

明治十二年十月御達第三十八号
旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得已事故アルキハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤同時ニ必其事故ヲ詳記シ戸長役場へ可爲届出若シ滞留數日ニ及フキハ七日毎ニ爲届出候様可致此旨相達候事

(三) 清國
在留日
本取
御達

明治十六年三月十日御布告第九号
清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

- 第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ左留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得
- 第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若シ期限内退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得
- 第三條 保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ領事ハ其保證金ヲ沒収シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ
- 第四條 退去期限若クハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以下一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(四) 在朝
鮮行步
犯罰則

明治十六年四月五日御布告第十一号
朝鮮國ニ於テ行步規程ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(五) 朝鮮
國ニ於
テ日本
人民買
易規則
並海關
稅目

明治十六年十月十五日御布告第三十四号
今般朝鮮國ト別紙ノ通日本人民貿易規則並海關稅目ヲ協議決定ス

朝鮮國ニ於テ日本人民貿易規則
別紙

第五條 此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス
右奉 勅旨布告候事

第一條 日本諸商船朝鮮國ノ通商港ニ入津スルトキハ即時ニ海關ヨリ官吏ヲ派遣シ船日ヲ封鎖シ且其外荷物アル場所ハ相當ノ取締ヲ爲スヘシ商船ニテハ其官吏ヲ丁寧ニ取扱ヒ且之ニ適宜ノ房室ヲ給スヘシ若シ之ニ給スヘキ房室ナキトキハ右官吏ハ海關ノ番船上若クハ陸上ニ在ルモ其便宜ニ任スヘシ尤其諸費ハ總テ海關ノ支拂タルヘシ船主若クハ代理人等ニ向テ私ニ毫釐ヲモ受クヘカラス但日本形風帆船荷物取締方ニ付テハ海關長日本領事官ト協議シ適宜ノ方法ヲ設施スヘシ

第二條 日本商船朝鮮國ノ通商港ニ入津シタルトキハ其船長或ハ代理人ヨリ其船書即船免狀荷物送狀ヲ日本領事官へ指出シ其預リ証書ヲ受取り而シテ入港手續トシテ其投錨時點ヨリ四十八時以內 但日曜日及ヒ其他ノ休日ヲ除ク以下諸款内時間ニ係ル者ハ皆ニ右預リ証書入港屆書積荷目録其他船用品及ヒ自除ノ免稅品 商品ニアラバ目録ヲ同シ海關へ差出スヘシ若シ右期限内ニ入港手續ヲ爲サ、レハ其船長ニ銅錢三萬文ノ罰金ヲ課シ尙ホ怠テ手續ヲ爲サ、レハ其期限ヨリ二十四時ヲ經過スル毎ニ更ニ同額ノ罰金ヲ課スヘシ但其總額ハ十萬文ノ外ニ踰ルヲ得ス 本款入港屆書ニハ船名噸數 或ハ船長ノ姓名乘

第二十 外交之部

三百五十五

組水夫人員船客ノ姓名員數仕出港名發航ノ年月日及ヒ入港ノ年月日ヲ詳記シ船長或ハ其代理人之ニ記名調印スヘシ又積荷目録ニハ積荷物ノ記号番号箇數品名及ヒ荷主ノ姓名ヲ詳記シ其正確ナル旨ヲ保証シ船長或ハ其代理人之ニ記名調印スヘシ又船用品及ヒ自餘ノ免稅品目録ニモ船長或ハ其代理人記名調印スヘシ但諸届書及ヒ其他ノ書類共何レモ日本國文ヲ用ヒ譯文ヲ副ルコトナシ○第三款 積荷目録ノ遺漏若クハ錯誤ハ入港手數ヲ畢リテヨリ二十四時以内ナレハ之ヲ書入レ或ハ書改ムルヲ得若シ此期限ヲ過ルトキハ手數料七千文ヲ納ムルニアラサレハ之ヲ書入レ又書改ムルヲ得ス又右ノ期限ヲ過キ誤脱アルヲ知ラスシテ陸揚スル者ハ其物品ニ課スヘキ稅ノ二倍ヲ徵ス○第四款 入港手數ヲ畢レハ即時ニ海關長ヨリ開船免狀ヲ付與スヘシ船長或ハ代理人ハ此免狀ヲ本船ヲ監守スル海關官吏ニ示シテ船口其他ノ開封ヲ乞フヘシ若シ擅ニ其封鎖ヲ破開スルトアレハ何人ノ所爲タルヲ問ハス其船長ニ三萬文ノ罰金ヲ課スヘシ○第五款 輸入荷物ヲ陸揚シ或ハ輸出荷物ヲ船積セント欲スル者ハ先ツ陸揚願書又ハ船積願書ニ仕入書ヲ添ヘハ荷物仕入ノ年月日及ヒ地名並ニ其實價及ヒ包裝費日銀保險料運賃其他ノ諸雜費ヲ詳記シ其買海關ニ主或ハ所有主又ハ船積セシ者或ハ代理人ノ記名調印セシモノヲ云フ
指出スヘシ然ルトキハ海關官吏ハ速カニ陸揚免狀或ハ船積免狀ヲ交付スヘシ荷物ヲ船積シ又ハ船積スルニハ先ツ此免狀ヲ本船ヲ監守スル所ノ海關官吏ニ示スヲ要ス又荷物ヲ船積スル者モ右ニ准シテ海關ノ免狀ヲ受クヘシ 陸揚願書又ハ船積願書ニハ其輸入船又ハ輸出船ノ名及ヒ其荷物ノ記号番号品名等ヲ詳記シ且海關ノ稅ヲ書スヘキ物品ヲ隱匿スルコトナキ旨ヲモ保証シ願人或其代理人記名調印スルヲ要ス○第六款 日没ヨリ日出マテハ海關ノ特許ヲ受クルニ非サレハ荷物ノ陸揚船積又ハ船移スルヲ得ス且海關官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間船口ヲ封鎖シ其他荷物ノ在ル所ニハ相當ノ取締ヲ爲シ置クヘシ若シ該官吏ノ許可ナクシテ其封鎖ヲ開キ或ハ取締ヲ破ル者アレハ其船長ニ三萬文ノ罰金ヲ課スヘシ○第七款 若シ海關ノ免狀ヲ得テシテ荷物ヲ陸揚船積若クハ船移スルモノ或ハ

下

海關ノ免狀ナクシテ兩國議定ノ埠頭外ヨリ荷物ヲ陸揚シ若クハ積出ス者アラハ並ニ本品ヲ沒収スヘシ○第八款 日本人民ハ通商各港ニ於テ荷物ヲ運搬シ或ハ船客ヲ送迎スル爲メ相對ノ約束ニテ朝鮮ノ舟車人夫等ヲ雇入ル、トヲ得ヘシ朝鮮官吏ニ於テハ決シテ之ニ干渉セス又何舟何人ト制限ヲ立ルカ如キコトアルヘカラス但日本商民若シ其雇方ニ差支ヘ海關ニ願出ルトキハ海關ニ於テ相當ノ周旋ヲナスヘシ○第九款 輸出入品トモ其通關ノ時本書附錄ノ稅則ニ從ヒ海關稅ヲ納ムヘシ又船中自用品ト雖也之ヲ陸揚シテ賣拂フトキハ稅則ニ照シテ納稅スヘシ但從價稅ヲ徵収スルトキハ荷物ノ產出地若クハ製造地ニ於テノ實價ニ該地ヨリ其荷物ヲ陸揚スル港マテノ運送費保險料及口錢等ノ諸費ヲ合算シ之ヲ原價トナシ其定則ノ稅ヲ賦課スヘシ○第十款 稅金ノ過納或ハ不足納ノコトアリトモ納稅ノ日ヨリ三十日ヲ過キサル間ハ海關ヨリハ其不足ヲ追収シ又納人ヨリハ其過納ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但荷物入量ノ不足又ハ損傷ヲ發見シタルカ爲メ過納稅ノ返還ヲ乞フ者アリトモ荷物通關後ハ之ヲ許サス○第十一款 海關官吏ハ輸出入荷物ノ全部又ハ一部ヲ荷物改所ニテ檢査スヘシ其搬運ノ費用ハ荷主ノ自辨タリ如シ荷物ヲ荷物改所ノ外ニ持往キ檢査スルトキハ其費用ハ海關ノ支辨タルヘシ又海關官吏ハ物品ノ損壞セサル様細心ニ之ヲ取扱ヒ檢査ヲ畢ラハ其荷物ヲ成ルヘキ丈ケ舊ノ如クニ包裝スヘシ且檢査ノ爲メ徒ニ時間ヲ費スコト莫ルヘシ若シ檢査ノ時不注意ニ在リ損毀ヲ致スコトアラハ海關之ヲ賠償スヘシ○第十二款 海關長若シ輸出入ノ申立テタル價格ヲ不充分ナリト思フトキハ海關鑒定役ノ鑒定價格ニ從テ納稅セシムヘシ若シ輸出入人其鑒定ニ服セカルトキハ二十四時内ニ其次第ヲ海關長ニ申出ツヘシ然ルトキハ海關長ハ輸出入人ヲシテ自ラ評價人ヲ選定シ其評估ニ從テ再度申立ヲ爲サシムヘシ海關長ハ其再申立テタル評定價格ニ從テ稅ヲ課スルモ又ハ評定價格ニ其百分ノ五ヲ加ヘ本品ヲ買上ルモ自由トス但之ヲ買上ルニ於テハ再度申立ノ日ヨリ五日以内ニ其代價ヲ拂濟スヘシ○第十三款 輸入貨物

第二十

外交之部

ノ途中ニ於テ損傷シタルモノアレハ輸入人ハ其趣ヲ海關ニ届出テ二人以上ノ正實ナル鑒定人ヲ撰ヒテ其損高ヲ鑒定セシメ各包ノ記号番号ト其損高ヲ記載シタル證書ヲ認メ鑒定人ヲシテ之ニ調印セシメ之ヲ陸揚願書ニ添テ海關ニ差出シ減稅ヲ請フヘシ但此場合ト雖トモ第十二款ニ載スル如ク更ニ鑒定評價スルヲ妨ケス○第十四款 若シ陸揚願書或ハ船積願書ニ載セサル物品ヲ荷物ノ内ニ隠シ入レ關稅ヲ逃脫セント謀ル者アラハ該品ヲ官ニ沒收スヘシ又若シ荷物ノ品種數量等ヲ偽リ或ハ可稅品ヲ免稅品目錄中ニ混記シテ關稅ヲ逃脫シ又ハ減少セント謀ル者アラハ相當ノ關稅ヲ納メシメタル上罰金トシテ其逃脫若クハ減少セント謀リタル稅金高ノ五倍ヲ課スヘシ○第十五款 船中乗組人及ヒ旅客ノ自用品ヲ陸揚或ハ船積スルニハ海關ノ免狀ヲ請フニ及ハス然レトモ海關官吏ニ於テ其品々ヲ檢査シ若シ自用ト認メ難キ過分ノ可稅品ヲ所持スルトキハ稅目ニ照シ之ニ相當ノ稅ヲ課スヘシ又旅具中ニ禁制品ヲ隱スモノハ本品ヲ沒收シ阿片ノ如キハ第三十六款ニ從テ處分スヘシ○第十六款 日本公使官所用ノ物品ニハ總テ關稅ヲ課スルコトナク且之ヲ檢査スルコト莫ルヘシ○第十七款 爆發質若クハ危險質ニ係ル荷物ヲ揚卸場ハ豫メ之ヲ定メ置キ其場所ノ外之ヲ揚卸スルヲ許サス○第十八款 朝鮮國ノ通商港ニ輸入シタル關稅納濟ノ諸物品ハ之ヲ朝鮮國ノ諸部ニ輸送スルニ當テ運送稅或ハ内地通關稅其他一切ノ稅ヲ賦課スルコト莫ルヘシ又輸出ノ爲メニ朝鮮國ノ各部ヨリ通商港ニ運送スル所ノ物品ニモ右同様運送稅内地通關稅其他一切ノ稅ヲ課セサルヘシ○第十九款 輸入物品關稅納濟ノ後更メテ之ヲ他ノ開港場ニ轉送セントスル者アラハ其荷物ヲ解開キ若クハ物品ヲ抽キ換ヘ或ハ挿シ入レタルコトナク元形ノマ、タルコトヲ海關ニ於テ見届ケタル上ハ納稅濟手形ヲ渡スヘシ他港ノ海關ニテハ其荷物ヲ右ノ手形ニ引合セテ相違ナクハ重子ヲ輸入稅ヲ課スルコトナシ若シ物品ヲ抽キ換ヘ或ハ挿入レタル等ノ事アラハ其抽キ換ヘ若クハ挿入レタル物品ニ付相當ノ稅ヲ納メシメタル上罰金トシテ其稅額五倍ノ金高ヲ課スヘシ○第二十款 輸入

物品荷主引取タル後之ヲ積戻サンコトヲ請フ者アルトキハ海關ニテ之ヲ檢査シ果シテ輸入品ニ相違ナキノ証左アレハ輸出稅ヲ課スルコトナク其積戻ヲ許スヘシ○第二十一款 日本商船朝鮮國ノ通商港ニ積ミ回ル朝鮮國產物ハ最初朝鮮港ヨリ輸出セシ時ノ性質及ヒ有様ヲ變換セズ又其輸出ノ日ヨリ起算シテ三周年ヲ經過セズ且其輸出ノ時受取タル船積免狀ヲ相添ヘ輸入人ニ於テ其朝鮮國產物タルコトヲ證明スルニ於テハ無稅關稅ヲ許スヘシ○第二十二款 朝鮮國沿海運送ノ便相整フ迄ノ間日本國商船ハ其何國ノ物品タルヲ問ハス之ヲ搭載シ通商各港ノ間ヲ往來スルヲ得ヘシ但各通商港ニテ買入タル朝鮮國產物ヲ朝鮮國ノ他ノ通商港ニ輸送セント欲スルトキハ其物品ノ輸出稅ニ等シキ金額又ハ其金額ヲ擔保スヘキ相當ノ保證人稅關長ノ滿チ選ミ其證書ヲ其輸出港ノ海關ニ預ケ置キ而シテ他ノ通商港ニ到リテ右物品ヲ陸揚スルニ陸揚證書ヲ其港ノ海關ヨリ受取リ尤輸入稅ヲ拂フコトナシ輸出ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ之ヲ輸出港ノ海關ニ差出シ最初預ケ置キタル金額ヲ請戻シ又ハ證書ノ返却ヲ乞フヘシ然レトモ若シ其輸送船ノ難破ニ遭フコトアレハ輸出ノ日ヨリ一年以内ニ右證書ノ代リトシテ日本領事官ノ確認シタル難破證明書ヲ差出スヘシ但朝鮮國ノ船艘不足ナキ日ニ至レハ此口ノ貨ヲ彼口ニ運載スルニ他國ノ船艘ヲ用ヒス○第二十三款 各通商港海關ノ荷物ヲ取扱フ處ニハ朝鮮政府ニテ上屋ヲ建設シ且又輸出入荷物等ヲ預置クヘキ借庫ヲ築造スヘシ尤藏敷料及ヒ其他ノ事ハ別ニ其規則ヲ協議設定スヘシ○第二十四款 輸入荷物ノ稅ヲ納メシテ之ヲ海關倉庫ニ預ケント欲スルモノハ倉庫規則ニ從ヒ海關長ノ免許ヲ受ケサルヘカラス然ルトキハ右荷物ヲ再ヒ日本國ニ積戻サンコトスルコトハ其儘輸出スルヲ得ヘシ又既ニ納稅シタル荷物ト雖モ右倉庫内ヨリ直チニ積戻ニ於テハ其既納ノ稅金ヲ返還スヘシ尤一旦荷主ノ許ニ引取リタル荷物ハ第二十款ノ例ニ據ルヘシ但朝鮮政府ニテ借庫ヲ建築セサル間ハ荷物ヲ引取リタル後ト雖モ原包ノマ、ナレハ海關ニ於テ既納ノ輸入稅ヲ還付シ積戻スコトヲ許スヘシ尤一々年ヲ過ル者ハ第二十款ノ例ニ同シ○第二十二

二十五款 日本商船修復ノ爲メ其積荷ヲ陸揚スヘキコトアラハ關稅ヲ納メシテ之ヲ陸揚
シ海關所轄ノ上屋或ハ倉庫ニ入置キ 但藏敷料及諸雜費ハ 修復濟ノ後之ヲ船積スルコトヲ
得ヘシ然レトモ若シ其積荷ヲ賣拂フコトアラハ相當ノ關稅ヲ納ムヘシ又朝鮮海邊ニテ破
損シタル船舶ノ船材船具及ヒ船用品ヲ賣却スルトキハ其輸入稅ヲ免除スヘシ○第二十六
款 日本商船出港セント欲セハ拔錨前ニ船長或ハ其代理人ヨリ先ツ出港届書及ヒ輸出積
荷目録ヲ海關ニ差出シ領事ノ船書預リ証書ヲ請戻シ出港免狀ヲ得テ後出港スヘシ○第二
十七款 出港ノ手數ヲ爲シ了リタル船舶都合ニヨリ再ヒ積荷ヲ積シ若クハ船卸セント
欲スルキハ更ニ入港ノ手數ヲナシ出港スルキハ又出港ノ手數ヲナスヘシ又出港手數ノ濟
ニタル上出港時期ニ及フト雖モ拔錨シ能ハサルトキハ船長或ハ其代理人ヨリ其旨ヲ海關
ニ届出テ認可ヲ受クヘシ○第二十八款 船長出港免狀ヲ得ント欲スルモ海關諸規則ニ違
犯スルノ事件アリテ未ダ裁判ヲ經サル間ハ海關ニ於テ之ヲ與ヘサルヘシ尤領事官ニ於テ
船長ニ至當ノ引受人ヲ立シムルカ又ハ相當ノ保證金ヲ出サシメタル上海關長ニ通牒スル
トキハ海關長ハ出港免狀ヲ與フヘシ○第二十九款 郵船ハ同日若クハ同時ニ入港手數ト
出港手數ヲ爲スコトヲ得ヘシ又輸入積荷目録ニハ其港ニ於テ陸揚シ若クハ船移スル所ノ
積荷ノ外之ヲ掲記スルコトヲ要セヌ又輸出積荷目録ハ船長ヨリ差出シ能ハサルトキハ其
郵船會社ノ代理人ヨリ出港後三日内ニ之ヲ指出スモ妨ケナシ○第三十款 船中ノ需用品
ヲ求ムル爲メ若クハ災厄ヲ避ル爲メ朝鮮ノ通商港ニ立寄リタル日本商船或ハ漁船ハ入港
手數及ヒ出港手數ヲ爲スニ及ハス但斯ノ如キ船舶ト雖モ二十四時以上碇泊スルキハ其大
第十款 海關ニ届出ツヘシ尤引續キ貿易ヲ爲ストキハ必ス第二款ノ規則ニ從フヲ要ス○第三
十一款 朝鮮政府ニ於テ後來通商各港内ヲ修理シ及ヒ燈臺標標ヲ設クヘシ尤之ヲ維持ス
ル費用ニ充ルカ爲メ日本商船ノ各通商港ニ來港スルモノハ噸稅トシテ每噸百二十五文ツ
ヲ納ムヘシ 但何石積ト稱スル船ハ日本ノ六石右噸數ヲ納ムレハ海關ヨリ四ヶ月限ノ手

形ヲ渡シ右期限内ハ朝鮮國內何レノ通商港ニ到ルトモ復タ噸稅ヲ納ムルニ及ハス又入港
ノ商船積荷ヲ陸揚セシテ他所ニ赴カントスルモノ二日内ニ出港スルトキハ噸稅ヲ納ム
ルニ及ハス尤風雨或ハ大霧等ニテ出港シ難キモノハ其次第ヲ海關ニ届出ツヘシ但漁船ハ
噸稅ヲ納メヌ尤噸稅ハ他國ノ商船若シ日本船ト同數ノ多キニ至レハ公同協議シテ改定ス
ルコトアルヘシ○第三十二款 軍艦其他日本政府ニ屬シ商品ヲ搭載セサル船舶ノ朝鮮國
通商港ニ至ルモノハ入港手數及ヒ出港手數ヲナスコトナリ又噸稅ヲ拂フコトナリ且海關
官吏之ヲ監守スルコト莫ルヘシ然レトモ其船中所用品ノ内不用ノ分ヲ陸揚シテ之ヲ賣拂
フトキハ其買主ヨリ之ヲ海關ニ届出テ相當ノ關稅ヲ納ムヘシ○第三十三條 日本商船若
シ朝鮮國ノ不開港場ニ於テ密商シ或ハ密商セント謀ルモノアラハ該商品ハ勿論其搭載ス
ル所ノ商品ヲ朝鮮政府ニ沒收シ船長ニ五十萬文ノ罰金ヲ課スヘシ但風波ノ難ヲ避ケ或ハ
薪氷食料ヲ求ムル爲メ一時寄泊スル者ハ此例ニ非ス○第三十四款 朝鮮國政府又ハ人
民ニテ積荷人員等ヲ不開口岸ニ運送セント欲スルキハ日本商船ヲ雇入ルコトヲ得ヘシ
雇主若シ人民ナレハ朝鮮國政府ノ免狀ヲ得テ之ヲ僱使スヘシ○第三十五款 此規則中ニ
掲ケル所ノ罰金沒收及ヒ其他ノ罰則ニ關スル事件ハ海關長ノ告訴ニ因リ日本領事官ニ於
テ之ヲ裁斷スヘシ尤其取立タル罰金及ヒ沒收シタル物品ハ總テ朝鮮政府ノ收領スル所ト
ス故ニ朝鮮官吏ノ差押ヘタル物品ハ該官吏ト日本領事官ト立會フ上ニテ之ニ封印ヲ施シ
裁斷ヲ了ル迄海關ニ留置クヘシ若シ領事官ニ於テ之ヲ無罰ニ決スルトキハ其物品ハ領事
官ニテ積主ヘ引渡スコト勿論タリト雖トモ朝鮮官吏若シ其裁判ニ服セサルトキハ日本國
相當ノ裁判所ヘ控訴スヘシ然ルキハ積主ハ其物品ノ代價ヲ裁判完結ニ至ル迄領事官ニ預
ケ置クヘシ若シ其差押ユル所ノ物品腐敗質變態或ハ危險質ニ係レハ其代價ヲ領事官ニ
預リ置キ物品ハ積主ニ渡スヘシ○第三十六款 鴉片ハ輸入ヲ嚴禁ス若シ鴉片ヲ密輸シ域
ハ密輸セント謀ルモノアラハ其品沒收ノ上密輸高一斤ニ付七千文ツノ罰金ヲ課スヘシ

但朝鮮政府需用ノ爲メ輸入スルカ又ハ在留日本人民藥用ノ爲メニ日本領事官ノ証明ヲ經テ輸入スルモノハ此限ニアラス○第三十七款 若シ朝鮮國水旱或ハ兵擾等ノ事故アリ境內缺食ヲ致スチ恐レ朝鮮政府暫ク米糧ノ輸出ヲ禁セント欲セハ須ク其期ニ先ツ一ケ月前ニ於テ地方官ヨリ日本領事官ニ照知スヘシ然ルトキハ豫メ其期ヲ在各港ノ日本商民ニ轉示シ一體遵守セシムヘシ米穀類ハ進口出口トモニ五分稅ヲ課スト雖モ如シ朝鮮國ニ災荒アリテ進口ヲ要シ或ハ日本國ニ災荒アリテ出口ヲ要スルキハ知照ヲ經テ進出稅ヲ免スヘシ○第三十八款 大小砲銃諸種彈丸火藥雷粉其他一切ノ軍器ハ朝鮮政府又ハ朝鮮政府ヨリ軍器買入ノ免許ヲ受ケタル朝鮮人ヲ除クノ外朝鮮人民ヘ賣渡スコトヲ許サス若シ之ヲ密賣スル者アラハ其品ヲ沒收スヘシ○第三十九款 此規則中罰科ヲ掲ケサル條款ニ違背スル者アルトキハ壹萬五千元以下ノ罰金ヲ課スヘシ○第四十款 此規則ニ定ムル所ノ稅銀及ヒ罰金ハ朝鮮銅錢ヲ以テ之ヲ納ムヘシ或ハ日本銀貨ヲ以テ時ノ相場ニ從ヒ換用スヘシ尤墨斯哥弟ハ日本銀貨ト同價ナルヲ以テ之ヲ換用スルモ亦妨ゲナシ又第二第三第四第六第三十三ノ諸款ニ掲ケル所ノ罰金及ヒ手數料ハ其商船五百噸以下ハ二分ノ一ヲ科シ五拾噸以下ハ四分ノ一ヲ科スヘシ○第四十一款 日本國漁船ハ朝鮮國全羅慶尙江原咸鏡ノ四道朝鮮國漁船ハ日本國肥前筑前長門朝鮮海ニ石見出雲對馬ノ海濱ニ往來捕魚スルヲ聽スト雖モ私ニ貨物ヲ以テ貿易スルヲ許サス違フ者ハ其品ヲ沒收スヘシ但其所獲ノ魚介ヲ賣買スルハ此例ニ非ス其彼此應納ノ魚稅及ヒ其他ノ細目ニ至テハ遵行兩年ノ後其景況ニ隨ヒ更ニ協議酌定スヘシ○第四十二款 此規則ハ調印ノ日ヨリ百日内ニ日本朝鮮兩政府ノ允准ヲ經ヘキモノニシテ右百日經過ノ後直チニ之ヲ實踐スヘシ然ルトキハ從來ノ貿易規則及ヒ其他ノ諸約書中此規則ノ諸條款ニ抵觸スルモノハ總テ其効ヲ失フモノトス尤現時若クハ後來朝鮮政府何等ノ權利特典及ヒ惠政恩遇ニ論ナク他國官民ニ施及スルモノアラハ日本國官民モ亦猶豫ナク一體均霑スルヲ得又此規則ハ實踐ノ日ヨリ五箇年ヲ以テ

期トス故ニ其滿期前ニ於テ兩國政府更ニ協議ヲ遂ケ新規則ヲ設立スルヲ要ス但若シ協議中其期ヲ過ルヲアルモ新規則設立マテハ此規則ニ據テ辦理スルモノトス且又兩國ノ官吏此規則内ニ掲載セサル條款ヲ增加スルヲ以テ彼此共ニ必要ト考フ時ハ隨時商議ヲ開クヲ得ヘシ

右証據トシテ兩國ノ全權大臣此條約ニ名ヲ記シ印ヲ調スル者也
大日本國明治十六年七月二十五日
大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辦理公使 竹添 進一郎印
全權大臣督辦交涉通商事務閣泳穆印

朝鮮國海關稅目
輸入之部

- 第一 藥材製藥及香料
- 五分稅 (從價)
- 一 諸藥材 他項ニ掲ル者ヲ除ク
- 一 明礬
- 一 樟腦
- 壹割稅 (從價)
- 一 龍腦
- 一 馨香
- 貳割稅 (從價)
- 一 安息香
- 一 沈香
- 一 諸製藥類
- 一 膠(各種ノ)
- 一 丁香
- 一 乳香
- 一 白檀

一 甘松

一 線香

一 其外香料

第二 染料及顏料

○八分稅 (從價)

一 乾藍水藍

一 蘇木及蘇木越幾斯

一 紅花

一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ染料

一 各色鉛粉及亞鉛粉

一 紺青

一 郡青

一 朱

第三 金屬及金屬製品類

○五分稅 (從價)

一 日本銅

○八分稅 (從價)

一 鎮鋼鉛錫汞夾金其他別項ニ掲ケサル諸金屬類(塊錠條桿板葉等ノ別ナク)

一 鐵線及銅線

一 冰銀

一 白銅

一 銅釜刀物及鉄製ブリキ製其他總テ金屬製品類

一 壹割稅 (從價)

一 漆

一 五倍子

一 染粉

一 色油

一 洋漆

一 雌黃

一 綠青

一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ顏料

一 金銀銅錫ノ箔類

○貳割稅 (從價)

一 金銀器及鍍金銀器

第四 油蠟脂類

○五分稅 (從價)

一 石炭油

○八分稅 (從價)

一 諸種ノ油別項ニ掲ケサルモノ

一 瀝青及タール

一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ油蠟脂類

一 レーソ

一 蠟燭

一 氣油

第五 布帛類

○八分稅 (從價)

一 生平

一 紬

一 郡内

一 綿純子、綿縹子、綿紋縹子、綿繪子、

一 白金巾

一 雲齋小倉織紋羽類

一 寒冷紗

第二十 外交之部

一 蜜蠟木蠟

一 獸蠟

一 椿ノ油

一 セサナン

一 蟹付油

一 海黃

一 繪子

一 絹縹

一 生金巾

一 唐棧

一 天竺布

一 緋金巾、色金巾、紋金巾、綾金巾、

三百六十五

- 一 左良紗
- 一 綿天鵝絨
- 一 純毛吳呂
- 一 畔吳呂
- 一 モヘイル(純駁ノ別ナク)
- 一 縮緬吳呂(純駁ノ別ナク)
- 一 綿毛純紗
- 一 毛純子、羅世板セルマス、スパニス、ストライプス(純駁ノ別ナク)
- 一 麻布、麻綿布、及麻毛布類(生色白色ノ別ナク) 一 臥氈^{フランゼット}
- 一 帆布(綿麻共)
- 一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ絹綿毛及麻布ノ類
- 一 油布蠟布
- 壹割税 (從價)
- 一 紗
- 一 琥珀
- 一 緞子縐子綾類
- 貳割税 (從價)
- 一 天鵝絨
- 第六 文具紙類
- 五分税 (從價)
- 一 日本人自用雜紙
- 八分税 (從價)
- 一 縮緬
- 一 羽二重
- 一 諸種地氈類^{カラムット}

- 一 印刷用洋紙(何國製ニ拘ラス)
- 一 諸日本紙
- 一 各種墨
- 壹割税 (從價)
- 一 色紙
- 一 印材
- 一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ文具紙類
- 第七 飲食物及煙草類
- 五分税 (從價)
- 一 穀物穀粉
- 一 日本人所食ノ物
- 八分税 (從價)
- 一 鹽
- 一 醃肉、醃魚及罐詰食料
- 一 葛粉
- 一 落花生豆
- 一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ飲食物類
- 一 糖密糖水
- 一 清國酒
- 壹割税 (從價)
- 一 麥酒(諸酒ノ)
- 壹割五分税 (從價)
- 第二十 外交之部
- 一 包裝用洋紙
- 一 墨池、封筒、鉛筆、洋筆、毛筆、石盤等
- 一 紋紙
- 一 印肉
- 一 生水菓
- 一 味噌醬油及酢
- 一 茶
- 一 寒天
- 一 素麵
- 一 檸檬水、生姜水、曹達水、及諸飲料類
- 一 白黑砂糖
- 一 日本酒
- 一 林檎酒
- 一 赤白葡萄酒

一 冰糖精製糖

○貳割稅 (從價)

一 卷烟草紙卷烟草其他一切ノ烟葉

○貳割五分稅 (從價)

一 ウエルト

一 シエリ

○三割稅 (從價)

一 プランドイ

一 シヤンペイン

一 杜松子酒

一 糖酒

一 其他別項ニ掲載セサル一切ノ酒類

第八 雜貨

○五分稅 (從價)

一 石炭及コークス

一 屋根板

一 疊

一 砥石

一 摺附木

一 靴其他履物及傘

一 膳、椀、重箱、鐵壺、筆筒、盆、及總テ木製器具

○八分稅 (從價)

一 菓子類

一 ホルト

一 ウイスキー

一 櫻酒

一 リキウル

一 燒酎及泡盛

一 日本人常用器具

一 襖、障子

一 石灰

一 砂紙

一 諸石鹼類

一 提灯

一 日本人建造房屋用竹木材

一 木材、竹材、石材

一 皮、角、骨、牙、蹄、羽、毛、類(工ヲ經サルモノ)

一 藤

一 絹糸

一 天蠶糸

一 苧麻

一 金剛砂

一 燈心

一 器械

一 別項ニ掲載セサル一切ノ雜貨

一 衣服帽靴其他服飾品

一 象牙及一角牙

一 齒磨

一 洋燈及其部分

○壹割稅 (從價)

一 熟皮類

一 諸玻璃器類(別項ニ載セサルモノ)

一 紫檀、黒檀、アイソクス木、黄楊木、鉄刀木及總テ堅硬木

一 蝙蝠傘(絹製鉄幹)

一 寫真器

一 鈕釦扣子類

○壹割五分稅 (從價)

第二十 外交之部

一 煉化石及瓦

一 木炭

一 綿英

一 生糸、熨斗糸、屑糸

一 羊毛其他獸毛

一 運貨車船

一 綿子、菓子、麻子、亞麻子、胡麻子

一 弗箱

一 食器用、磁器陶器類

一 臥床、椅子、其他家具

一 目鏡

一 扇及團扇類

一 窓玻璃及玻璃片

一 馬具及馬車

一 鏡類(廊ノ有無ニ拘ラス)

一 堅硬木

一 旅櫃、提壺及佩袋類

一 樂器

一 鐵山使用ノ爆發物

一袋物類

一烟管及烟囊
一毛、皮、狐、獾、獺、海狸、兔等ノ類

一玩具

○貳割稅 (從價)
一時繪シタル漆器類

一時辰鐘、及時辰表并其部分品類

○貳割五分稅 (從價)
一寫眞

一籠甲細工類

一花筒、置物其他室内裝飾品ニ屬スルモノ
一繪畫(裱裝ノ有無ニ拘ラス)

○三割稅 (從價)
一彫刻物

一烟花類

一玻璃珠

一獵銃及其使品

一珊瑚珠

一眞珠及寶石類

一衛球象棋骨牌

一其他一切ノ遊戯品
第九 船舶
一蒸源船 每噸銅錢貳百五拾文

一風帆船 每噸銅錢百貳拾五文

一貨幣

一金銀地金

一旅客行李ノ具

一貨物見本(相當ノ額數)

一新聞紙

一廣告紙類

一書籍地圖海圖

一招牌

一修藝勸業ノ雜形類

一農具

一醫術用器具

一活字(新古ノ別ナク)

一尺度、衡量、塞暖計、晴雨儀、驗液器、針盤、其他學術用器具并其使用品

一消防器具

一船用具 若シ不用ノ者ヲ陸上ニテ競賣スル者ハ但ホ定稅ヲ徵ス

一包裝諸藩若唐及繩類(貨物包裝ニ用フベキ)

一鴉片(藥用鴉片ヲ除ク)

一偽藥

一擬造貨幣類

一淫猥私褻ノ畫圖肖像

一軍器類 凡ソ軍械ノ式樣及ヒ防身ノ物件ハ須ラシテ領事官ニテ朝鮮官准單ヲ収到シタル上方ニ進口ヲ准ス但出賣スルヲ准サス

朝鮮國海關稅目
輸出ノ部

○免稅

一金銀地銀及砂金

一貨幣

一旅客行李ノ具

○五分稅 (從價)
一別項ニ掲載セサル一切ノ輸出品

○壹割五分稅 (從價)

一紅蔘 朝鮮ノ商民日本ニ帶入スルトキハ應ニ一割五分ノ稅ヲ納ムヘシ如シ日本ノ商民朝鮮政府ノ特許ヲ經テ私カニ輸出スル者アレハ查出沒収スヘシ

右証據トシテ兩國ノ全權大臣此稅目ニ名ヲ記シ印ヲ蓋スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日

大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辦理公使竹添 進一郎 印
全權大臣督辦交涉通商事務閣泳穆 印

(六)朝鮮
國問行
里程取
極約書

明治十六年十月三日御布達第三十二号

朝鮮國問行里程取極約書別紙之通訂定ス
右布達候事

朝鮮國問行里程取極約書

第一條 兩國政府ハ日本曆明治十五年八月三十一日 各全權大臣ノ議定シタル續約第一款ノ旨趣ニ依リ朝鮮國仁川元山釜山三港ニ於テ今年可取廣問行里程ヲ雙方委任ノ大臣協議ノ上左ノ通定メタリ

第二條 仁川港 東ハ安山始興果川ヲ限ル、東北ハ陽川金浦ヲ限ル、北ハ江華島ヲ限ル、元山港 西ハ德源府管下馬息嶺ヲ限ル、南ハ安邊府管下古龍池院ヲ限ル、北ハ文川

郡管下業加直ヲ限ル
釜山港 東ハ機張ヲ限ル、西ハ金海ヲ限ル、南ハ鳴湖ヲ限ル、北ハ梁山ヲ限ル

右ニ定メタル各地ノ境界ニハ兩國官吏立會ノ上標木ヲ立テ以テ四方ノ限止ヲ明ニスヘシ

第三條 來ル日本曆明治十七年朝鮮曆甲申年更ニ擴張スヘキ里程ノ境界ハ其期ニ至リ兩國委員議定ノ上此約書ノ附録ト爲スヘシ

第四條 此里程内ニ於テ日本人隨意遊獵スルヲ得ルト雖モ人家接近ノ地並ニ朝鮮政府ノ禁制スル場所ニ於テ發銃スヘカラス

第五條 日本人此里程内ニ在テ或ハ暴行ヲナシ又ハ境界ヲ踰越スル者アル時ハ地方官吏ニテ之ヲ取押ヘ日本領事館ニ送交シ或ハ其地ニ引留置領事官ニ通知シ處分ヲナサシムヘシ

但引留又ハ送致ノ際苛虐ノ取扱ヲ爲ス可ラサルハ勿論引留時間ハ領事館往復ニ必要ナル時間ニ限ルヘシ

第六條 此里程内ニ於テ朝鮮人往來ノ日本人ニ對シ暴行ヲ爲ス者アレハ地方官速カニ吏

ヲ派シ之ヲ救護シ其暴行人ヲ嚴罰スヘシ

第七條 日本人問行ノ際或ハ日暮歸ル能ハス或ハ途中疾病事故等有テ行ク能ハサル者ニ遇ハ沿路ノ人民其請ニ應シテ轎馬ヲ雇ヒ或ハ其家ニ休宿セシムル等懇切ノ取リヲナスヘシ

但其轎馬費宿料等ハ該日本人ヨリ完済スヘシ

第八條 第四條ヨリ以下ノ諸條ハ朝鮮政府ニテ里程内ノ鄉村及道路ニ揭示シ人民ヲシテ能ク遵奉セシムヘシ

右確實ナルヲ証シ兩國ノ各委員大臣記名調印スル者也

大日本國明治十六年七月二十五日
大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辨理公使竹添 進一郎 印
全權大臣督辦交涉通商事務閔泳穆 印

(七)朝鮮
國海岸
ニ於テ
犯罪ノ
日本國
漁民取
扱規則

明治十六年十月十五日御布達第三十三号

朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則別紙ノ通協議決定ス
右布達候

別紙

約定シタル朝鮮國海岸ニ於テ犯罪ノ日本國漁民取扱規則

第一條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ日本國人朝鮮國ノ法禁ヲ犯シタルトキハ水陸共左ノ箇條ニ照シ取扱フヘシ

第二條 朝鮮國官吏ハ法禁ヲ犯セル日本國人ヲ取押ヘタルトキハ其罪証ヲ具録シ之ヲ添テ其日本人ヲ最寄開港場ノ日本領事官ヘ引渡シ相當ノ處分ヲ要求スヘシ日本領事官ハ速ニ其要求ニ應シ之ヲ審査シ照律處斷スヘシ但朝鮮國官吏取押又ハ護送ノ際苛虐ノ取扱ヲナスコトナカル可シ

第二十 外交之部

第三條 犯罪ト認ムヘキ日本人ヲ海陸孰レヨリ護送スルモ朝鮮官吏ノ勝手タルヘシ但成
 丈ケ速ニ護送シ事故ナクシテ徒ニ罪犯ヲ其地ニ淹留スヘカラス
 第四條 朝鮮國ノ約定海岸ニ於テ罪ヲ犯セシト認ムル日本人ヲ海路ヨリ護送スルトキハ
 朝鮮官吏日本人ノ船舶ニ乗込或ハ別船ニ在テ之ヲ引來ル俱ニ其便宜ニ任ス如シ陸路ヨリ
 護送スルキハ其日本船ハ逐テ引渡ス迄ノ間ハ地方官ニテ之ヲ監守シ毀失セシムルコトナカ
 ルヘシ且其船具漁具其外運搬シ難キ物品ハ目錄ニ作リ犯罪ニ添テ之ヲ送付スヘシ
 第五條 如シ薪水食糧ヲ得ルカ爲メ又ハ獲タル所ノ魚類ヲ賣買スル爲メ上陸シ陸上ニ於
 テ其犯罪同行中若干名ノミニ係ルトキハ其若干名ノミヲ此手續ニ依テ護送シ其他ハ之ヲ
 拘引スルコトナカルヘシ又海上ナレハ其罪犯ヲ除クノ外殘員留航海ニ堪ルトキハ朝鮮官
 吏ハ其罪犯ノミヲ護送シ其他ハ之ヲ放還スヘシ
 第六條 此規則ハ實行ノ上更ニ増損スヘキモノアレハ雙方協議改正スルヲ得ヘシ
 右確實ナルヲ証シ兩國ノ各委任大臣茲ニ記名調印スルモノ也
 大日本國明治十六年七月二十五日
 大朝鮮國開國四百九十二年六月二十二日

全權大臣辨理公使竹添 進一郎 印
 全權大臣督辦交涉通商事務閣泳穆 印

(八)朝鮮
 國ト貿易
 易手續

明治十六年十二月七日御布告第四十号
 明治十七年二月一日ヨリ明治九年十月第百二十九号布告ヲ廢止候條朝鮮國トノ貿易ハ總
 テ他ノ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ但當分ノ内各開港場ノ外長崎縣下對馬國嚴原山口縣下
 長門國下ノ關福岡縣下筑前國博多ノ三港ニ限リ朝鮮國貿易ニ關スル日本人所有ノ船舶ノ
 出入及貨物ノ積卸ヲ許シ日本形船舶ニ限リ出港手数料トシテ正金壹圓入港手数料トシテ
 正金貳圓ヲ徵收ス 右奉 勅旨布告候事

○ 追 補 之 部

(一)醫術
 開業試
 驗規則
 第八條
 二但書
 右布達候事
 明治十七年一月二十一日內務省御達乙第三号

明治十七年一月三十一日御布達第二号
 明治十六年十月第三十四号布達醫術開業試驗規則第八條ニ左ノ但書ヲ追加ス
 但齒科醫術開業試驗ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
 右布達候事
 警 視 廳
 府 縣(東京府ヲ除ク)

(二)巡查
 帶劍心
 得

明治十五年當省乙第七十一号ヲ以テ巡查帶劍者不得止場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得サル
 旨相違置候處尙左ノ各條ノ通可相心得此旨更ニ相違候事但第一條ノ場合ニ非ズシテ傷害
 スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ法術ノ處分ニ付スヘシ
 巡查帶劍心得方
 第一條 帶劍ハ左ノ場合ノ外拔劍スルヲ得ス
 一 兇器ヲ持シ人ノ身体財産ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劍スルニ非サレハ保護スルニ術ナキ
 トキ
 一 暴行人兇器ヲ持シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキトキ
 一 犯罪人逮捕ノトキ又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非サレハ防
 禦スルニ術ナキトキ
 第二條 前各項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ模樣アルニ於テハ穩ニ取押フ
 第二條 不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ關係ナキ者ニ負傷セサル様深ク注意スヘシ
 追捕之部
 三百七十五

第四條 披削シタルトキハ兎人ヲ傷スルト否トニ拘ハラズ其景況ヲ速ニ所屬長ニ具申ス

(三) 明治十五年三月御布達第三号

明治十五年二月十五日御布達第三号
明治十五年三月御布達第三号
民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ額雪ヲ支フルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ斫伐シ礦物土物ヲ掘採セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不勘ニ付是等ノ箇所ハ實地ノ景況ニヨリ其事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

右布達候事

(四) 茶業組合準則

明治十七年三月四日農商務省御達第四号

近來着色偽似ノ茶ヲ製出シ又ハ不頁茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候儀ニ付各管内ニ於テ茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合ニ爲相立其規約認可ノ上農商務省ニ可届出此旨相達候事

茶業組合準則

- 第一條 茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ問ハズ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ但自用茶ノミヲ製スル者ハ此限ニアラズ
- 第二條 組合ノ名稱ハ何(府縣)下何(郡區町村)茶業組合ト稱スヘシ
- 第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ
 - 第一項 他物若シハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ賣買セサル事
 - 第二項 乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事
 - 第三項 製茶荷造ノ上ハ必ス組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事
- 第四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ
- 第五條 組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ但証票ニハ府縣廳ノ檢印ヲ受ヘシ
- 第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ
- 第七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所一箇所ヲ設ケテ各組合ヲ

(五) 教導職試補

明治十七年三月七日内務省御達乙第十四号

職試補 申付ノ 義付ノ 御達

統轄スヘシ第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ第九條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ第十條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルコトヲ得

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

戊第一号之通神道副總裁神佛各管長ニ相達候條爲心得此旨相達候事

教導職試補申付方ノ儀自今丁年未滿ノ者及犯罪其他事故有之失職或ハ免職等ノ者ハ伺出丁年以上ノ者ハ試驗方法ヲ履行シ猶人體可否地方官ニ協議ノ上管長限リ可申出此旨相達候事但試補申付ノ分ハ九年教部省乙第十四号達ノ通届出ヘシ

(七) 明治十年三月御布達第六号

明治十年十一月第十七号御布達第六号
明治十年十一月第十七号御布達第六号
酒類造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ酒造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得但酒類並ニ酒造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ズ其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

右奉 勅旨布告候事

(八) 地租改正

明治十七年三月十五日御布達第七号

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七十号布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣神戶縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

別冊

地租條例 追補之部

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價格ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セズ
第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、掘田、鑛泉地、
第二類 池沼、山林、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ
第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、卿村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 開墾後下年期明荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ルトキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム
第十條 地目ヲ變換スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徴収ス但買入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ
第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴收ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十五條 開墾地ハ後下年期明荒地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ更定地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ開墾地ハ十五年以内ノ後下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徴收ス

第十七條 後下年期中當初ノ目的ヲ改メ他ノ地目ニ變スルトキハ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ直ニ其地價ヲ定メ又ハ更ニ後下年期ヲ許可スルヲアルヘシ

第十八條 後下年期明ニ至リ開墾ノ成功ニ至ラサルモノハ更ニ十五年以内後下繼年期ヲ許可ス

第十九條 後下年期明ノトキハ其地價ヲ修正ス若シ其開墾當初ノ目的ニ達セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十一條 免租年期明ニ至リ其他ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

追補之部

(九)質屋
取締條例

第二十二條 低價年租期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノハ免租期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年租期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十年以内免租年租期明ニ至リ其年租期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依テ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年租期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租年租期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトシ其地券ヲ還納セシム

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年租期明ニ至リ但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條第十六條ニ違犯スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其免租地ヲ有租地ト爲シ又ハ開墾ヲ爲スコトヲ許可スヘキモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但地租改正ノ初年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第十七條ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

明治十七年三月廿五日御布告第九号
質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

別冊
質屋取締條例

第一條 質屋營業者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クシテ營業ス

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クシテ營業ス

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但証人ヲ要スルキハ質入主及証人ノ寫印ヲ捺捺セシメ置ヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル証人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコトナシ質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年以内コ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若シハ其以
追補之部
三百八十一

前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
第十二條 質物及寄藏品中ノ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ
其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルベシ質屋ハ之ヲ拒ムコ
トヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ
處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止
スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家風又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事 東京府 縣令ニ於テ便宜取設ケ
内務卿ニ届出ヘシ

(十)海軍
治罪法

明治十七年三月二十一日御布告第八号
海軍治罪法別冊ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

別冊

海軍治罪法目錄

- 第一章 總則
- 第二章 軍法會議ノ構成
- 第三章 軍法會議ノ權限
- 第四章 海軍檢察
- 第五章 審問
- 第六章 判決

第七章 軍中處分

海軍治罪法

第一章 總則

第一條 海軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス軍法會議ハ刑事附帶
ノ民事ヲ受理セス○第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限リ之
ヲ許ス○第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ掲ケル者ヲ謂フ○第四
條 司令官ト稱スルハ艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官及合團ノ地ノ司令官ヲ
謂フ○第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條
規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス○第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍
法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ヲ別テ四トナス
一 東京軍法會議 二 鎮守府軍法會議 三 艦隊軍法會議 四 合團軍法會議
東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時艦内ニ之ヲ設ケ合
團軍法會議ハ合團間ニ之ヲ設ケ

第八條 軍法會議ハ判士長一名判士四名主理録事各一名若シハ數名ヲ以テ之ヲ開シ判
士長ハ佐官ヲ以テシ判士ハ尉官主理ハ委任官録事ハ七等官以下ヲ以テス若シ被告人陸海
軍中尉以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ 被告人
陸海軍少將以上及ヒ同等以上ノ軍人軍屬ナル時ハ勅任官ノ主理ヲシテ其職ヲ掌ラシム

判士長	判士	被 告 人
佐官 一名	大尉二名若シハ一名 中尉二名若シハ三名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若シハ中佐一名	少佐二名若シハ一名 大尉二名若シハ三名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬

追補之部

大佐 一名	中佐 一名若クハ三名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大佐 二名若クハ三名	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	少將 一名若クハ三名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	中將 二名若クハ三名	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	少將 一名若クハ二名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍屬
大將 一名	中將 一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍屬

第九條 軍人ニ非サル勅任官ヲ審判スル時ノ軍法會議ハ將官ヲ審判スルノ例ニ從テ第十條ノ權ヲ付與スルコトアル可シ其權限司令官ニ同シ○第十一條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ海軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス勅任官ニ主理ヲ命スル時モ亦同シ 佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲シ奏任官ヲ以テ主理ヲ命スル時ハ檢察官若クハ審問委員タリシ者ハ其事件ノ判士ニ加フルコトナシ○第十二條 艦隊軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツベキ將校缺乏スル時ハ司令官ノ上申ニ依リ海軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム但外國ニ在テハ司令官他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條 東京軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ權限ニ屬セサル軍人其他海軍ノ用ニ供スル船ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 鎮守府所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者

三 鎮守府所管ノ監獄ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十四條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一 鎮守府長官ノ麾下ニ屬スル軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 鎮守府ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ依リ處斷ス可キ者

三 鎮守府所管ノ監獄ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ニ記列スル者ヲ審判ス

一 司令官ノ麾下ニ屬スル軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 司令官ノ所管ニ係リ海軍刑法第三條第四條ニ據リ處斷ス可キ者

三 艦船内ニ在ル未決既決ノ囚人重罪輕罪ヲ犯シタル者

第十六條 艦隊若クハ數艘ノ艦船外國へ出發ノ後其軍法會議ノ權限ニ屬スル者内國ニ在テ犯罪發覺シタル時ハ鎮守府軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ○第十七條 海軍卿ハ時宜ニ依リ甲軍法會議ノ權限ニ屬スル事件ヲ乙軍法會議ニ移シ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 軍人任官若クハ就役刑罰ヲ犯シ在官現役中發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺シタル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺シタル者ハ司法裁判ニ付ス○第二十條 軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス○第二十一條 軍人ト軍人ト非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス但陸軍軍人軍屬ト共犯ニ係ル時ハ第十九條ノ例ニ從テ○第二十二條 追補之部

第二十一條 海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘
罪供ニ發シタル者モ亦同シ○第二十二條 重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦軍法會議
ニ於テ之ヲ審判ス○第二十三條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審
判ス

第四章 海軍檢察

第二十四條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ証憑ヲ拾收ス○第二十五條 左ニ記
列スル者ハ所管長官若クハ所屬長ノ命令ヲ受ケテ海軍檢察ノ職務ヲ行フ
東京軍法會議及ヒ鎮守府軍法會議ノ主理 鎮守府及ヒ艦船營ノ士官
學校監事

第二十六條 海軍檢察ノ職務ヲ行フ者現行犯アルコトヲ知リタル時ハ時宜ニ因リ犯所ニ
臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ルコトヲ得○第二十七條 各廳長及ヒ艦船
營長ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ海軍檢察ノ處分ヲ爲シ
又ハ第二十五條ニ記載シタル諸官ニ命シ若クハ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得○第
二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ被告人ノ所屬長東京軍法
會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得○第二十九條 何
人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十八條ニ記載シタル官吏ニ告發スル
コトヲ得○第三十條 軍人其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルコトヲ知リタ
ル時ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ被告人ノ所屬長ニ告發ス可シ○第
三十一條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得 其
犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ
主理司法警察官憲兵若クハ巡查ニ交付ス可シ○第三十二條 司法警察官憲兵及ヒ巡查現
行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法

會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ引致ス可シ○第三十三條 司法警察官軍人ニ係ル告
訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主
理ニ交付ス可シ○第三十四條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲サシムル若クハ其陳述ヲ變更セシム
ル時ハ調書ヲ作り証據文書ヲ添テ各其所管長官若クハ所屬長又ハ委託ヲ受ケタル各廳長
ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 鎮守府長官司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ
被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ 被告人士官
以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ鎮守府長官ハ判
士ニ司令官ハ廳下ノ將校ニ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ
○第三十七條 各廳長被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ自ラ檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ速ニ
其事件ヲ東京軍法會議ノ主理ニ移シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付ス可シ○第三十八條 東京
軍法會議ノ判士長主理ヨリ被告事件ノ交付ヲ受ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ 被
告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ 被告人下士以下
及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ判士ニ審問委員ヲ命
シテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ○第三十九條 海軍卿被告事件ノ具申ヲ
受ケタル時ハ其事件ノ難易ニ從ヒ審問若クハ判決ニ付スルノ命令ヲ下ス可シ其命令ヲ受
ケタル鎮守府長官司令官若クハ判士長ハ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ又ハ直ニ判決
ニ付ス可シ○第四十條 審問委員審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル
時ハ即日之ヲ訊問ス可シ○第四十一條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ
在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十二條 審問委員ハ召喚狀

追補之部

ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得○第四十三條 審問委員ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪証ヲ濯滅シ若クハ逃走スルノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ○第四十四條 審問委員ハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ委任テ之ヲ執行スルコトヲ得○第四十五條 審問委員ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正常ノ事故アリテ合狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニアル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十六條 審問委員ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ハ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ 司令官外國ニ在テハ領事若クハ公使ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ○第四十七條 審問委員ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得 收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ○第四十八條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ 其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十九條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得 其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル○第五十條 審問委員ハ証人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得 証人皇族若クハ勅任官ナル時ハ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ 証人疾病其他正常ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得 証人遠隔ノ地ニ住ナル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル○第五十一條 審問委員ハ被告人及ヒ証人

ノ訊問ヲ爲ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ証人ニ贖示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ 被告人及ヒ証人ハ其陳述ヲ變更増減セシムコトヲ請求スルコトヲ得○第五十二條 審問委員ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ○第五十三條 審問委員ハ証人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セシメテ其呼出ニ應セサル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但其証人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得 証人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ○第五十四條 証人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時モ亦審問委員之ヲ命ス○第五十五條 審問委員ハ審問ニ於テ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ 共犯ヲ覺察シタル時ハ之ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ○第五十六條 審問委員ハ審問終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟文書ト共ニ之ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

第六章 判決

第五十七條 鎮守府長官若クハ司令官審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可シ 東京軍法會議ノ判士長審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可シ○第五十八條 海軍卿審問事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ニ具申ス可シ

追補之部

議ノ判士長ニ下ス可シ○第五十九條 鎮守府長官若シハ司令官軍法會議ヲ開ク時ハ其命令書ヲ判士長ニ下シ其原本ヲ訴訟文書ト共ニ主理ニ下附シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ 東京軍法會議ノ判士長軍法會議ヲ開ク時ハ之ヲ主理ニ通知シ主理ハ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ○第六十條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士主理録事各其席ニ就キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム 判士長ハ先ツ被告人ノ官位勲等職名氏族籍年齡住所ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審問委員ノ報告書ヲ朗讀セシム 其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム○第六十一條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スレトナ得 判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得 法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ 法廷ニ於テ証人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル○第六十二條 判士長ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應ゼサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病其他正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得○第六十三條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲スコシ○第六十四條 被告人逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セズ又ハ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲スコシ○第六十五條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲スコシ○第六十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後証人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ○第六十七條 判士長ハ証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシム 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ各其所管長官ニ具申シ東京軍法會議ノ判士長ハ其証人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申ス可シ 其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

○第六十八條 判士長ハ法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ 法廷ニ於テ共犯ヲ覺擧シタル時ハ第六十七條ノ例ニ從ヒ具申ス可シ 若シ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲スコシ○第六十九條 判士長ハ被告人及ヒ証人ノ訊問終リタル時ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ヲキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ○第七十條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シ之ヲ作り判士長判士録事署名捺印ス可シ
一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス
二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪トナラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス
三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四被告人ノ官位勲等職名氏族籍年齡住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス
第七十一條 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ各其所管長官ニ具申ス可シ○第七十二條 鎮守府長官司令官ハ左ニ記載スル事件ハ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス

死刑 上長官及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪 士官准士官及ヒ同等軍人ノ重罪
第七十三條 東京軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請フ可シ○第七十四條 鎮守府長官司令官ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得 其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ海軍卿ニ上申ス可シ○第七十五條 海軍卿ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ其具申スル所ノ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得 海軍卿ハ死刑並ニ上長官以上及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪並士官及ヒ同等委任官軍人ノ處

追補之部

罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ○第七十六條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士主理録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出延セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ○第七十七條 外國若シハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス○第七十八條 行刑ニ關スル方法ハ海軍卿別ニ之ヲ定ム

第七章 軍中處分

第七十九條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官麾下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得○第八十條 合圍ノ地ニ於テハ第十三條第十四條第十五條ニ記載シタル者ハ合圍軍法會議ノ權限ニ屬ス○第八十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官被告人ノ官等ニ拘ハラス直ニ審判及ヒ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得○第八十二條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス 其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得○第八十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官時宜ニ因リ此治罪法ノ條目ヲ省略處分セシムルコトヲ得○第八十四條 合圍軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ海軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

明治十七年四月二十二日御布達第九号

(十一)印紙類賣捌規程

印紙類賣捌規程左ノ通相定明治十七年六月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙賣捌手續ハ總テ同日ヨリ廢止ス

右布達候事 印紙類賣捌規程

第一條 印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依テ傷疾ノ爲メ終身恩受ヲ受ケル者及ヒ陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項巡查看守給助例第二條第三項ニ掲ケル寡婦(孤兒)ニシテ扶助料ヲ受ケル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ
第二條 府知事縣令ハ適宜毎郡區内ニ印紙類賣捌人員ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ
第三條 第一條ノ資格ヲ有スル出願者第二條ノ定員ニ滿タサル時ハ一般陸軍恩給令海軍恩給令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受ケル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ
但本條ヲ以テスルモ猶定員ニ充タサル地方ニ於テハ二ヶ年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトヲ得

第四條 印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ現居住地方ノ郡區役所ニ願出管轄應ヨリ賣捌所看板ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ケヘシ

第五條 印紙類賣捌所ハ一人一ヶ所ニ限リ許可スルモノトス

第六條 此規程ニ依リ賣捌シヘキ印紙類左ノ如シ
一 證券(印界)紙
一 烟草印紙
一 訴訟用印紙
一 賣藥印紙

一 訴訟用印紙

一 賣藥印紙

第七條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌シヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第八條 印紙類ハ其代金ヲ上納セシメタル後下渡スヘシ
但第一條ノ資格ヲ有スル者及ヒ第三條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテ公債証書ヲ抵當トシ六ヶ月以内之ガ延納ヲ許スコトアルヘシ

第九條 印紙賣捌手数料ハ第一條ノ資格ヲ有スル者ニハ賣捌代金高百分ノ十其他ノ者ニハ百分七ヲ給スヘシ

第十條 賣捌人ニシテ左ノ事項ニ該ル者ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌所看板ヲ返納スヘシ此場合ニ於テハ返納印紙代金ニ對スル當初下渡ノ手数料ヲ除去シ其殘金額ヲ返付スヘシ

追補之部

一 恩給ヲ受クルノ權消絶シタル時〇一 恩給停止ノ時〇一 廢業シタル時〇一 此規程ニ背
 キ營業禁止又ハ停止セラレタル時
 第十一條 印紙類火災盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス但
 避クヘカラザル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ具シテ處分ヲ乞フヘシ
 第十二條 印紙類ノ損傷又ハ汚染シタル時ハ其印紙ニ代金百分ノ五ノ金額ヲ添ヘ印紙交
 換ヲ請求スルコトヲ得
 第十三條 此規程ニ違背シタル者ハ情狀ニ依リ管轄廳ニ於テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止ス
 ルコトアルヘシ

(十二) 船
 船積量
 測度規
 則

明治十七年四月廿四日御布告第拾号
 船積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 右奉 勅旨布告候事

別紙

船積量測度規則

- 第一條 凡ソ船舶(海軍艦船ヲ除ク)ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス
- 第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止
ムヘシ
- 第三條 西派形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一
石トス
- 第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ
以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ヨアル者ヲ以テ量噸甲板トス
- 第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室

(十三) 船
 船積量
 測度方
 法

明治十七年四月廿四日御布告第十号
 今般第十号ヲ以テ船積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム
 右布達候事

別紙

船舶積量測度方法

- 第二條 西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
- 第一項 量噸甲板上ニテ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ
追補之部

準ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢(船梁ノ弧形ヲナス高)ノ三分
ノ一下ニテ船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シテ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ
準ヒ等分スヘシ

第一級 量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個

第二級 同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個

第三級 同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個

第四級 同八十尺以上二百二十五尺迄ノ船ハ十個

第五級 同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ上
面ニ至ル深ヲ測リ之ヲ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板
下ノ深トテ而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六
個ニ各深ヲ等分スヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ艙内ノ幅ヲ測定スヘシ
各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當
ル幅(上下兩端ヲ除ク)ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三
分ノ一ヲ乘シ其得數ヲ各分長點ニ於ケル面積トス

各分長點ノ面積面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數
ニ當ル面積(船首船尾ノ兩端ヲ除ク)ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積(若シアレ
ハ)ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量噸甲板
下ノ噸數トス

第二項 最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中
央ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平

均ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項 甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ
平均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量
噸甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測
リ之ヲ船首ヨリ數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅(船首船尾ノ兩端ヲ除ク)ハ二
倍シ此合數ニ船首船尾ノ幅(若アレハ)ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ
平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條 機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ
噸數トス

第二項 機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長
幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項 暗車瀛船ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ
之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條 甲板ヲキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船首上端ノ内側ヨリ船尾上端ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヲ第一條第一項ニ揭ク
ル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ攪線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測
リ其他第一條第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項 船舷上端ノ境線ヲ超エ船室ノ設アルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高
ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條 日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境
追補之部

界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ内側ヨリ内側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項 船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

第五條 日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石數トス

(十四)官 明治十七年四月廿五日御達第三十五号

吏恩給 令中刪 除及追 加

本年(一月)第一号達官吏恩給令中左ノ通刪除及ヒ追加候條此旨相達候事

第七條中(恩給支給ノ際)ノ六字ヲ刪ル

第二十九條 官吏滿五年以上奉職ノ者十一年未滿ニシテ退官セシ時ハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但恩給ヲ受ル者並ニ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若シハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

(十五)改 明治十七年四月廿五日御達第三十六号

剛俸規 本年(一月)第五号達月俸規則第二十二條相廢候條此旨相達候事

軍恩給 令中更 正

明治十六年(九月)第三十七号達陸軍恩給令中左ノ通更正候條此旨相達候事

第三條中(會計卒看病卒樂生)ノ八字ヲ刪リ(憲兵卒)ノ下(雜卒諸工)ノ四字ヲ加フ

第十六條中(監軍部長)ノ上(檢閱)ノ二字ヲ加フ

第五十一條中(若シハ扶助料)ノ六字ヲ刪ル

(以下略之)

(十七)海 明治十七年四月廿五日御達第三十八号

軍恩給 令中更 正

明治十六年(九月)第三十八号達海軍恩給令中左ノ通更正候條此旨相達候事

第五十一條中(若シハ扶助料)ノ六字ヲ刪ル

(以下略之)

(十八)官 明治十七年四月廿五日御達第三十九号

吏非職 條中 刪除及 追加

本年(一月)第三号達官吏非職條例第一條中(廢廳廢官又ハ)ノ六字ヲ刪除シ左ノ一條追加候條此旨相達候事

第六條 廢廳廢官ノ際御用滞在ヲ命スル者アルトキハ本條例ニ準據ス

(十九)證 明治十七年五月一日御布告第十一号

券印稅 規則改 正

明治十七年(七月)第八十一号布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年(七月)第百二十号布告ハ同日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ帖用ス

ヘシ〇第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

三百九十九

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ税印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手 印稅五厘〇一委任狀 同五厘〇一金高記載ナキ約定證文 同壹錢〇一遺(金物)證文 同壹錢〇一跡式讓證文 同壹錢〇一讓與證文 同壹錢〇一期限ヲ定サル預リ金證文 同壹錢〇一耕地小作證文 同壹錢〇一雇人請合狀 同壹錢〇一金高記載ナキ諸物品預リ證文 同壹錢〇一金高記載ナキ諸物品借用證文 同壹錢〇一(地所家屋)預リ證文 同壹錢〇一諸物品切手 同壹錢〇一(借地借家)證文 同壹錢〇一賣買仕切書 同壹錢〇一保險證文 同壹錢〇一諸會社株券 同壹錢〇一送金手形 同壹錢〇一(金錢諸物品)通帳(一年以内一冊ニ付)同壹錢〇一(金錢諸物品)判取帳(同上)同貳拾錢〇一結社約定書 同壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀 印稅壹錢〇一營業ニ關スル請取書 同壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ紙用ヲ用フヘシ

一金錢借用證文 一(地所家屋)賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文 一金高記載アル諸物品借用證文

一諸物品賣買證文 一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

一金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢 〇金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同貳錢 〇金高五拾圓以上百圓未滿 同四錢 〇金高百圓以上百五拾圓未滿 同六錢 〇金高百五拾圓以上貳百圓未滿 同八錢 〇金高貳百圓以上三百圓未滿 同拾壹錢 〇金高三百圓以上四百圓未滿 同拾四錢 〇金高四百圓以上六百圓未滿 同貳拾錢 〇金高六百圓以上八百圓未滿 同貳拾六錢 〇金高八百圓以上千圓未滿 同三拾貳錢 〇金高千圓以上千四百圓未滿 同三拾八錢 〇金高千四百圓以上千七百圓未滿 同四拾四錢 〇金高千七百圓以上貳千圓未滿 同五拾錢 〇金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 同六拾錢 〇金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同七拾錢 〇金高三千圓以上三千五百圓未滿 同八拾錢 〇金高三千五百圓以上四千圓未滿 同九拾錢 〇金高四千圓以上 同壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一金高百圓未滿 印稅四錢 金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當坐預リ證文 一質物(預リ書小札)

金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹錢 金高貳拾圓以上 印稅貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅貳錢 金高百圓以上 同四錢

一爲替手形 一荷爲替手形 一約束手形

金高五拾圓未滿 印稅壹錢 〇金高五拾圓以上百圓未滿 同貳錢 〇金高百圓以上貳百圓未滿 同四錢 〇金高貳百圓以上五百圓未滿 同八錢 〇金高五百圓以上千圓未滿 同拾五錢 〇金高千圓以上貳千圓未滿 同貳拾五錢 〇金高貳千圓以上同五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フナルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス○第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ○第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム○第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス○第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ○第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿○一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議屬若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書○一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書○一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿○一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書○一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納入ヘ差出ス請取證書○一權災救助命獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ○第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高及ヒ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ○第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙類ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テ

(廿)印紙
及ヒ手
形用紙
種類

明治十七年五月一日御布達第十二号
令般第十一号布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新 取交貼用スルコトヲ得
追補之部

ハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ○第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ニ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ○第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得○第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ○第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ○第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請入證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル料料罰金ノ半額ニ相當スル料料又ハ罰金ニ處ス○第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス○第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス○第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス○第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス○第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

印紙	定價 五厘	橙黃色	定價 一錢
赭色	同 二錢	萌黃色	同 五錢
黃綠色	同 拾錢	青色	同 貳拾五錢
桔梗色	同 五拾錢	赤色	同 壹圓
淡黑色	同		
手形川紙			
老綠色	定價 壹錢	桔梗色	定價 貳錢
淡黑色	同 四錢	橙黃色	同 八錢
淡赭色	同 拾五錢	淡紅色	同 貳拾五錢
淡青色	同 五拾錢	淡黃色	同 壹圓
右布達候事			

(廿一)水 明治十七年五月二日御布告第十二号

產取獲 稅

北海道ニ於テ納稅スヘキ水產物ヲ取獲セントスルモノハ其地ノ管廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ違フ者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス

右奉 勅旨布告候事

(廿二)改 明治十七年五月七日御布告第十三号

地方稅 則第三條

明治十三年(四月)第拾六号布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正シ十七手度ヨリ施行ス

一戸長以下給料旅費 右奉 勅旨布告候事

(廿三)改 明治十七年五月七日御布告第拾四号

區町村會法

明治十三年(四月)第拾八号布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス○
 第二條 區町村會ノ會期議員ノ員數任期改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム○第
 三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戸長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス○第四
 條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戸長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不當ナ
 リトスルキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ○第五條 區長ニ於テ
 區會郡區長戸長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルト
 キハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ○第六條 府知事縣令ニ於テ
 區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區
 町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得○第七條 前條ノ場合ニ於テ停
 止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戸長ハ經費ノ支出
 徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得○第八條 區町村ニ於テ議員
 ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又
 ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル○第九條 議員ヲ選舉スル
 ヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ム
 ル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍軍人現役ノ者
 ハ選舉人タルコトヲ得ス○第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニ
 シテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第
 一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス○第十一條 區會ノ議長ハ區
 長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員
 中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得○第十二條 府知事縣令其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ

追補之部

得ヘカヲサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ○第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得○第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若シハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得○第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長兵長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但兵長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

(廿四)區

明治十七年五月七日御布告第十五号

町村費
土木費
意納者
處分方

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ意納者ハ總テ明治十年(十一月)第七十九号布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受盟人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ兵長ニ於テ之ヲ管理シ會議ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年(四月)第貳十四号布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(廿五)戶

明治十七年五月七日御達第四十壹号

長選任
ノ御達

戶長ハ府知事縣令之ヲ選任ス但町村人民ヨシテ三人乃至五人ヲ選舉セシメ府知事縣令其中ニ就テ選任スルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

(廿六)陸

明治十六年八月四日御布告第二十四号

軍治罪
法

陸軍治罪法別冊ノ通制定シ明治十六年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

陸軍治罪法目錄

第一章 總則

第三章 軍法會議ノ權限

第五章 審問

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス 軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セズ但官物ノ損害ニ係ルノ賠償ハ此限ニ在ラズ○第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス○第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ揭クル者ヲ謂フ○第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官營所司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ○第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百條第百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス○第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數個ヲ設ク 軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク○第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク○第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス 但被告ハ準士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

退補之部

判士長判	一名	尉官	三名	陸海軍少尉准士官及同等ノ軍人軍屬
佐官	一名	尉官	一名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
佐官	一名	尉官	一名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
中佐	一名	尉官	一名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐	一名	尉官	一名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將	一名	尉官	一名	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將	一名	尉官	一名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將	一名	尉官	一名	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將	一名	尉官	一名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將	一名	尉官	一名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬

第十條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス佐官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉官ヲ以テ判士ト爲ス時モ亦同シ○第十一條 軍團長及ヒ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得又

理事審事缺員スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職務ヲ行ハシメ錄事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラヌ之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得○第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ可キ將校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲ス○第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルヲ得○第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス○第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス○第十七條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス○第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法判ニ付ス 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ懲罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス○第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人軍屬ト共犯ニ係ル時モ亦同シ○第二十條 軍人ト軍人ニ非ラサル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス○第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ○第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪モ亦之ヲ審判ス○第二十三條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シ

タル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

第四章 陸軍檢察

第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ拾収ス○第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官 憲兵ノ將校下士 砲兵工兵ノ監護

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得 審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得○第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所屬ノ長官職長若クハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得○第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得○第二十九條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官職長ニ告發ス可シ○第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得 其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵若クハ巡查ニ交付ス可シ○第三十一條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ○第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴發テ受ケタル時ハ速カニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官職長ニ交付ス可シ○第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシムルコトヲ請求スルコトヲ得○第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調査ヲ作ル可シ 其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ○第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官

次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調査ヲ作り證據文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 司令官報告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ 被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ 營所ニ於テ被告人上長官以上ナル時ハ營所司令官ハ之ヲ軍管司令官ニ具申ス可シ○第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ○第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官等ニ拘ハラヌ直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得○第三十九條 審事審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人ノ出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ○第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得○第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ○第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事ヲ囑テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事ニ人相替ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ○第四十五條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得 收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可

追補之部

キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ○第四十六條 審事
 ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ録事之
 ニ會同シ調書ヲ作ル可シ 若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官
 ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十七條 審事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署
 及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコ
 トヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十六條第二項ノ例ニ依ル○第四十八條 審事
 ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得 證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事其所在ニ就テ陳
 述ヲ聽ク可シ 證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル
 時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ 證人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若ク
 ハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得○第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問
 ヲ爲ス時ハ録事之ニ會同シ調書ヲ作リ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ證人ニ指示セ
 シメ其陳述シタル所ニ違ハザルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサ
 ル時ハ其旨ヲ記スヘシ 被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減セシムコトヲ請求スルコトヲ
 得○第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時
 ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ 鑑定人
 ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推
 測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ○第五十一條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明
 セスシテ其呼出ニ應セサル時ハ二回以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其證人ニ對
 シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得 證人陳述ヲ背セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又鑑定
 人鑑定ヲ背セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ○第五十二條 證人
 鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時亦審
 事之ヲ命ス○第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス

下

可シ 共犯ヲ覺察シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ○第五十四條 審事審
 問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ
 意見書ヲ添へ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共
 ニ理事ニ下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士長ニ通報ス可シ○第五十六條
 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士各其席ニ着キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム 判
 士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等隊名氏名族籍年齢ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事
 ナシテ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム 其朗讀終ルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ
 判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム○第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ
 發スルコトヲ得 判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得 法廷ニ於テ罪
 ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ 法廷
 ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル○第五十八條 禁錮以上ノ刑
 ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若クハ正當ノ事故ニ因
 リ出廷スル能ザルコトヲ證明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得○第五十九條
 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セズ若クハ逃走シテ召喚狀ヲ
 送達スルコトヲ得サル時ハ缺席裁判ヲ爲ス可シ○第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召
 喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ欠席裁判ヲ爲ス可シ○第六十一條 數人共犯ノ
 審判ヲ爲ス時ハ被告人中欠席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ○
 第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシ
 ム可シ 證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ判
 士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシム之ヲ司令官ニ具

追補之部

申ス可シ 其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得○第六十三條
 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士長ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命
 シテ其處分ヲ爲サシム可シ 法廷ニ於テ其犯ヲ覺察シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具
 申ス可シ 若シ餘罪ヲ覺察シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ但判士長ハ之ヲ司令
 官ニ具申ス可シ○第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人
 ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム
 可シ○第六十六條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長
 判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上
 申ス可シ
 一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス
 二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラザルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル
 時ハ其旨ヲ記ス
 三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ
 全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス
 四被告人ノ官位勳等隊号職名氏族籍年齡住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス
 第六十六條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決
 ス但營所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍符司令官ニ上申ス可シ
 死刑
 上長官以上ノ重罪輕罪
 士官ノ重罪
 第六十七條 司令官其判決ヲ不當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セ
 シムルコトヲ得 其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ○第六十八條
 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ
 再議セシムルコトヲ得 陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル

(三)監獄 明治十四年九月十九日御達第八十一号

官省院使廳府縣

者ハ上奏シテ命ヲ請フ可シ○第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事
 法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ爲ス可シ○第七十條 關席裁判ニ係ル
 刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前ニ揭示ス可シ○第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ
 其地ノ司令官ハ第六十六條ノ權限ニ拘ハララス直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得○第
 七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ
 戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス 其戴罪服務中功績アル
 者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得○第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ
 定ム○第七十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ時宜ニ依リ此治罪法ノ
 條目ヲ省略執行セシムルコトヲ得

監獄則目錄

- 第一編 汎則
 - 第一章 汎則
 - 第二章 監署ノ規程
 - 第三章 監獄ノ構造
- 第二編 役法 附時限
 - 第一章 役法 附時限
 - 第二章 工錢
 - 第三章 徒刑流刑及禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒押送
 - 第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎
 - 追補之部

第三編

第一章 給與

第二章 疾病 附死亡

第三章 書信

第四章 接見

第五章 差入品

第四編

第一章 教誨

第二章 賞譽

第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
 - 一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得
 - 二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス
 - 三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス
 - 四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス
 - 五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス
 - 六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス 北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス
- 第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スル者ハ此限ニ在ラス○第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事 東京府ヲ除ク

縣令之ヲ管理ス 第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルヲ得ス○第五條 内務卿ハ每年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシム可シ 警視總監府知事縣令ハ每年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱ス可シ裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱ス可シ 府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルヲ得○第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ○第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルヲ得

第二章 監署ノ規定

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ乘リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス○第九條 典獄監守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閲シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ヲカラシムルヲ要ス○第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス 未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通譯ヲ禁シ法廷ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス 已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス○第十一條 入監ノ婦女乳兒(三歲未滿)ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス○第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房內ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルルモ又同シ○第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ○第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス 若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請ントキハ之ヲ許ス○第十五條 在監人書籍ヲ

追補之部

看ノト請フ時ハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミナ許ス可シ○第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番号ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縋着シ其番号ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ息布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ其犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム○第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十条第一項ノ例ニ照シテ處分ス可シ 矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス○第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ
一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡痍者
二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二項ニ記載シタル懲治人ハ戸長ノ謄票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サズ但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス 入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ○第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス
一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再ヒ懲治場ニ入レシ者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領

置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其積遺ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ 在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス○第二十三條 典獄ハ看主長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ○第二十四條 賞表ヲ與ヘタルキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視察シタルキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ○第二十五條 特赦アリタルキハ速カニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ○第二十六條 特赦ヲ受ケタル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ○第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察傳遞ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送ス可シ 監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官ニ記載シタル官吏ニ送致スヘシ○第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來着ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得○第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六ヶ月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス 傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス○第三十條 刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得○第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス○第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ 其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後俟ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ス○第三十三條 刑死者又ハ死亡者アル時ハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏

ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス 親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ伐價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス 若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒収ス ○第三十四條 在監人逃走スル者アル時領證ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒収ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非ラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス 領證ノ工錢ハ第五十七條ニ照ラシテ處分スヘシ ○第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ 水火風霆其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス 留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ ○第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ 甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交通スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス ○第三十八條 密室ハ監官ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ 密室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス 密室圍室ハ一室一人ヲ限トス ○第三十九條 接見室ハ監倉ノ首部ニ設ケ其壁面コ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス ○第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障碍スルノ虞ナカラシムヘシ ○第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防シヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

下 下

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ每囚一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身軀ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應ジ作業ノ科程ヲ寬恕ス 若シ已ムヲ得テ外役ニ服セシムル時ハ鉄鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ密室ヲ用テ(晴雨ヲ問ハス)其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁一人以上ヲシテ之ヲ監視シム 外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシムルヲ要ス ○第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監視房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲ爲スヘシ 歸監セシムル時モ亦同シ ○第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ヌ父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日ヲ免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

新嘗祭

天長節

第四十五條

十二月三十一日

囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス ○第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工錢ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル 未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ ○第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間(休憩時間ヲ除)農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

追補之部

四百廿一

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ每朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飲セシム又毎日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス○第四十九條 定役ニ服スル者ハ每朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飲セシム其起床ヨリ約一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得 起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ拆ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム○第五十條 科役ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ラハ罷役セシム 午飯ニ就カシムルノ際科役ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休息ヲ許サス

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其一分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ収ム 定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ収メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科役ヲ畢テ仍ホ作業スル者科役外ノ工錢ハ之ニ準ス○第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後贖ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ○第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ○第五十四條 各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ○第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請求ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ在監人給與規則第七條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得○第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊

ニ下付ス若シ下付ヲ受クヘキモノナキトキハ之ヲ沒収ス○第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒収ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒収ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受ケタル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ內務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ 北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス○第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ○第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ケナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ 屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス○第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將ヲ營生ノ方法ヲ取ルシ之ヲ許否スヘシ 前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ長ニ通告スヘシ其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス○第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス○第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ

追補之部

淺葱色トス○第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短三種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服
ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス 獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番号ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣

一編入衣

就役服

一單短衣

一編入短衣

一股引

一雜具

一蒲團

一莞屨

一帶(長三尺)

一手巾

一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四七分合

一 挽割麥十分ノ六七合

一 同 五合

一 同 四合

一 同 三合

強キ力業ニ服スル者

輕キ力業ニ服スル者

下役ニ服セサル者及ヒ

滿十歲以上ノ未決者

十歲未滿ノ幼者

一裕

一褌裈

一裕短衣

一褌裈

一蚊帳

一枕

一褌(長三尺)

一裳

一菜 金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ丁錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其

請ニ由リ領得シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過リルコ

トヲ得ズ定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領得シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス

ルコトヲ得但一日金五錢ヲ過リルコトヲ得ス○第七十條 在監人日用ノ雜費 澁濯補綴又

係ル日當諸費ハ一人一日金壹錢二厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一貯水器並ニ欲器

一唾壺

一便器

一小箒

一洗手盆

木製

同 木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接

續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

草ノ種類ヲ以テ製作

セシ軟カナルモノ

木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ常

日ニ毎一次トス○第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ常

ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス 婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス○第

七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澁ヒ臭氣ヲ去リ蟲害

ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病 附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルニトヲ得○第七十六條 病者ノ攝養ニ効

アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ

追補之部

典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ○第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師並莅テ之ヲ驗屍スヘシ 未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ○第七十九條 死者ノ親屬若シハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以內ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請トキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印又ハ花押セシムヘシ 遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入レテ假葬シ其上ニ氏名票ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トス一通ニ過クルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ル、コトナク且必要ト認メタル限ニ在ラス○第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ輕ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス○第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過クルコトヲ得ス○第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス○第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來リタル書信ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ選善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス○第八十五條 書信ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ○第八十六條 在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其

受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ其監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム 親屬故舊若クハ辯護人ノ書信ハ監獄署ニ宛テ之ヲ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキトナキトキハ之ヲ許シ看守長看守并莅テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス 面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス○第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時間ハ五十分時ヲ過クルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物ヲ贈ラシテ一ノ贈ラシト請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ烟草其他衛生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス○第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス○第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四條

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム○第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後其講席ヲ開クモノトス○第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時開讀書習字算術度量圖畫等ノ科目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス 學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學

追補之部

四百廿七

業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閱ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ○第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 此款ヲ除ク
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁圓圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ニ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧嘩又ハ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 未決監除ク
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラス直ニ看守所ニ通報スヘシ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ至テ醫藥ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通報スヘシ

下

- 一 獨居ノ者本カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ繩器繩ヲ引キテ以之ヲ報スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人ヲラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ
- 一 水火風震等ノ際解旅ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ
- 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

某監獄署

第二章 賞罰

第九十六條 已決囚獄則ヲ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルキハ之ヲ賞譽スヘシ○第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖ノ表面ニ方二寸(曲尺)ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ○第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ見及ヒ通信スルヲ許ス○第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス○第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救済シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス○第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ○第一百二條 懲治人第一百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第一百三條 已決囚獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

追補之部

四百廿九

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス
 二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス
 三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ搗湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
 四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ搗湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス
 第百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限トス 減食閤室七晝夜ニ滿ツルモ改悛ノ狀ナキトハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルヲ得
 第百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス
 一 獨居 晝夜一室ニ獨居セシム
 二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス
 第百六條 獨慎ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス○第百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第百三條第百五條ニ準據シ減食スルヲ得○第百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケケルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス○第百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鉄丸ヲ屬シタル鉄索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ綴帶セシメ綴帶ノ所ニ下錠ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス 若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス 鉄丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鉄丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從テ○第百十條 減食或ハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ

診視セシメ身体ニ妨ケナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ○第百十一條 屏禁減食閤室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ○第百十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ルトキハ之ヲ免スルコトヲ得○第百十二條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘留スルコトヲ得
 (圖式略之)

(四)使丁 明治十四年十二月五日司法省御達丁第二十六号 規則

大審院裁判所

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘシ此旨相達候事 別冊

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス 使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ○第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ミ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受クル者トス 使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ○第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス○第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ○第五條 使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ○第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ○第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟廷ニ出ルヲ許サス○第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ 但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルヲ得○第九條 送達賃銀ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里五錢以下トス 賃銀ノ

追補之部

四百卅一

○第十條 債
○第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受クル者ヨリ之ヲ拂置クヘシ 但左ノ場
合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス證人鑑定人通事ノ呼出狀
二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀
三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之
ヲ拂フ可シ○第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可
シ○第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

○第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條
件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲ス可シ
一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムル事
二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムル事
第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所所在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシテ書
記局ノ試験ヲ經ルヲ要ス 使丁取締タルニハ身元保證トシテ金五十圓以上ノ價格アル
公債證書地券又ハ銀行其他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ム可シ 但此保證金ハ解職ノ
時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ但書記不足ナル時ハ雇ヲ以テ之ニ充ツ
ヘシ
試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 使丁規則
- 二 請負郡村ノ地名又ハ里程
- 三 普通書簡ノ書讀
- 第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限りノ處分ヲ受ケ未タ辨償ヲ終ラサル者
ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

明治十四年十二月二十八日御布告第七十三号

(五)無能
力者法
律上ノ
代人及
ヒ民事
擔當人

- 無能力者
- 一 未丁年者
- 二 妻タル者
- 三 白痴瘋癲人
- 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者

追補之部

四雇主 但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時
右奉 勅旨布告候事

(六)商船
内犯罪
取扱規

明治十四年十二月十五日御布告第六十五号
商船内犯罪取扱規則

第一條 何人ヲリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヲ得○第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ知リタル時ハ其事件ニ付キ假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルノ能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ヲ爲ス可シ 前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス○第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡ス可シ

(七)商標
條令

明治十七年六月七日第十九号御布告
商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

商標條例

第一條 商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登錄ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登錄ノ日ヨリ十五年間之ヲ專用スルノ權ヲ有スヘシ○第二條 商標ヲ專用セント欲スル者ハ其願書ニ見本并ニ明細書ヲ添ヘ登錄ヲ願出ツ可シ其明細書ニハ商標ノ說明用方并其商品ノ名目種類ヲ詳記スヘシ 其登錄ヲ經タル者ハ登錄證ヲ下付スヘシ○第三條 商標ノ登錄ヲ願出ツル者アルキハ願書ノ日附ヨリ二ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸スヘキ願書到達セザレハ之ヲ登錄ス可シ 若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用セシカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下ス可シ○第四條 登錄商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ムヘシ○第五條 左ノ商標ハ登錄ヲ願出ツルコトヲ得ス 一已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者 二地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章ノミヲ以テスル者 三同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者 四新ニ使用スル商標ニシテ本條例發布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者 ○第六條 登錄商標主其專用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルキ及廢業シ又ハ休業一ケ年間ニ及ヒタルキハ三ヶ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ○第七條 登錄商標專用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルキハ三ヶ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ○第八條 登錄商標主其商標ノ專用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ但專用年限ハ最初登錄ノ日ヨリ通算ス可シ○第九條 登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ 前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分ス可シ○第十條 登錄商標專用滿期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ滿期三ヶ月前ニ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ○第十一條 登錄證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツ可シ○第十二條 商標ヲ登錄セシ後第五條ニ觸レ又ハ登錄願書及見本

追補之部

明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルキハ其登録無効ニ歸シ登録證ヲ返納セシム可
 シ○第十三條 登録商標主其業ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其專用權ヲ失ス休業ニケ
 年ニ及フ者亦同シ○第十四條 商標ノ登録ヲ願出ツル者ハ左ノ手数料ヲ納ム可シ但願書
 ナ却下スルトキハ之ヲ返付ス 一 標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若ク
 ハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フ 二 商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル
 者及滿期續用ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金五圓 三 登録證ノ再度ヲ願出ツル者ハ商標
 一個ニ付金一圓 ○第十五條 登録商標主其專用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ並ニ
 要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得○第十六條 登録商標ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一月以上一年
 以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス○
 第十七條 登録商標ニ相紛ラハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ
 重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス○第十八條 第十六條第十七條ノ違犯
 ニ係ル商標ヲ付シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
 ○第十九條 第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品
 ト分離ス可ラサルモノハ商品ヲ破毀セシム○第二十條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ
 得及商標ノ登録ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二拾圓以
 下ノ罰金ヲ附加ス○第二十一條 第六條第七條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上
 一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス○第二十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發
 ノ例ヲ用ヒス○第二十三條 第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登録商標主ノ告訴ヲ待
 テ其罪ヲ論ス○第二十四條 登録商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴
 ニ係ル商標ヲ附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ於

テ其登録ヲ願出ツヘシ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置キ其間之ト抵觸ス
 可キ願書到達セザレハ之ヲ登録ス可シ 若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一
 種類ノ商品ニ專用センガ爲メ登録ヲ願出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ
 拘ハラス農商務卿ヨリ於テ其商標ノ使用最久シキト認定スルモノヲ登録シテ其他ヲ却下ス
 ヘシ 本條例第三條ニ依リ處分スヘキ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置
 附則第一項ニ從ヒ願出ツルモノニ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス之ヲ却下
 ス可シ 前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手数料ヲ返ス

明治十七年六月七日御布達第十三号

今般商標條例制定候ニ付商標登録手續別冊ノ通相定ム

右布達候事

商標登録手續

第一條 商標ニ關スル願書届書ハ都テ地方廳ヲ經農商務省ニ差出可シ○第二條 商標ノ
 登録ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚及手数料ヲ添願書並明細書各二通ヲ差出ヘシ○第三
 條 一箇ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒシカ爲メ又ハ二箇以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用ヒ
 シカ爲メ登録ヲ願出ツルキハ其商品一箇又ハ商標一箇毎ニ各別ノ願書及明細書ヲ差出ス
 ヘシ○第四條 條例第七條ニ據リ相續ヲ届山ルトキ其死亡後相續ニ係ル者ハ相續者并身
 元詳ナル證人二名以上連署シ其生存中ノ相續ニ係ルモノハ登録商標主相續者連署スヘシ
 ○第五條 條例第八條ニ據リ讓與分與ヲ願出ルトキハ讓與主讓受主連署シ讓主ヨリ登録證
 並約定書寫及手数料ヲ添ヘ願書二通並明細書(讓與願ニハ二通分與願ニハ一通)ヲ差出ス
 ヘシ 其登録ヲ經タルトキハ分受人ニハ別ニ分受登録證及明細書ヲ下付シ分與人又ハ讓
 受人ニハ前登錄證及明細書ニ裏書捺印シテ之ヲ下付スヘシ○第六條 條例第九條ニ依リ
 登録商標ノ轉用兼用ヲ願出ツルトキハ第二條ニ準據スヘシ○第七條 條例第十條第十一

條ニ依リ商標ノ續用及登錄證ノ再渡ヲ願出ツルトキハ手數料ヲ添ヘ願書ニ通テ差出スヘシ
○第八條 登錄願書ヲ却下スルトキハ其ノ理由ヲ指示スヘシ○第九條 登錄商標主ハ其商標ノ彩色ヲ適宜變換スルコトヲ得○第十條 登錄商標主ハ農商務省ノ指揮ニ隨ヒ商標又ハ其寫書ヲ登錄證下付ノ日ヨリ三十日以内ニ差出ス可シ○第十一條 登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ但願人ニ於テ其種類ヲ判知シ難キモノハ農商務省ニ於テ之ヲ判定スヘシ

商品ノ種類

- 第一種 化學品及藥劑 酸類 鹽類 「アルカリ」 漂白粉 護謨 樹脂 膠 燐 石鹼 酒精 「グリセリン」 「キナモン」 「モルヒテ」 丁幾
- 二種 劑 舍利別 煎劑 丸藥 膏藥 藥油 麝香 丁子等 染料及顔料 藍玉 藍靛 紫根 紅 朱 丹 綠青 燒青 洋靛 白粉 胡粉 藤黃等
- 第三種 塗料 漆 假漆 「ペンキ」 澁 靴墨等
- 第四種 香料及燻料 香油 髮膏 香袋 香水 炷香 線香 煉香等
- 第五種 金屬及其半加工品 銑鐵 銀鐵 鋼鐵 條鐵 鐵葉 鐵板 銅 銅板 銅鐵線 鉛 鉛板 亞鉛 亞鉛板 錫 合金等
- 第六種 金屬ノ製品 鑄物 打物 彫鏤品及編物等
- 第七種 利器及尖刀器 鎌 鋸 鑿 錐 鋸 針 釘 剪刀 小刀 剃刀 庖丁 齧剪等 貴金屬及其製品 (アルミニウム金ニツケル銀ノ製品モ此中ニ屬ス) 黃金
- 第八種 銀 四分一 紫銅其他貴金屬ノ合金鏤品及彫鏤品等
- 第九種 珠玉及其彫鏤品 珊瑚珠 眞珠 瑪瑙 水晶 黃玉碧玉等及其模造品
- 第十種 礦物類(但石炭ハ第五十一種ニ屬ス)

- 第十一種 石材及其製品並彫鏤品 石板石 大理石 砥石 石器等及其模造品
- 第十二種 漆喰類 漆喰 「セメント」 石膏等
- 第十三種 陶磁器類 諸種ノ陶磁器 土器 埴塙 瓦 煉化石等
- 第十四種 七寶燒
- 第十五種 玻璃及其製品 玻璃塊 玻璃管 彩色玻璃等
- 第十六種 機械類 紡績機 裁縫機 製糖機 印刷機械其他諸製造機械蒸氣ノ機關及鐘等
- 第十七種 農工器具 鋤 鍬 唐箕 熊手 釘拔 鉄鉋 繩墨等
- 第十八種 學術上ノ器械類 理化學 醫術及測量等ノ器械
- 第十九種 度量權衡 運送用ノ車類 荷車 馬車 人力車 自轉車等
- 第二十種 樂器 琴 三味線 胡弓 笛等
- 第二十一種 時計及其附屬品
- 第二十二種 銃砲 彈丸 火藥 烟火類
- 第二十三種 蠶種紙 繭
- 第二十四種 蠶種紙 繭
- 第二十五種 眞綿及木綿綿
- 第二十六種 生絲 絹絲及天蠶絲 (琴絲 金絲 銀絲等モ此中ニ屬ス)
- 第二十七種 綿絲
- 第二十八種 毛絲
- 第二十九種 麻絲
- 第三十種 絹織物
- 第三十一種 木綿織物
- 第三十二種 毛織物

- 第三十三種 麻織物
- 第三十四種 絹綿麻毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五種 絲類ノ編物及組物「レース」打紐 網等
- 第三十六種 被服 諸種ノ衣服 織物製帽子 手套 足袋 織物製雨衣 袴 目利安等
- 第三十七種 釀造物及飲料 諸種ノ酒 酢 醬油密柑水 曹達水等
- 第三十八種 砂糖 諸種ノ砂糖 糖蜜 蜂蜜等
- 第三十九種 菓子及菓子包類 干菓子 蒸菓子 掛ケ物 西洋菓子 飴 砂糖漬等
- 第四十種 茶及咖啡類
- 第四十一種 煙草類
- 第四十二種 穀菜種子及菓物類 五穀 蔬菜 粟 菓實 種子 根球等
- 第四十三種 挽粉濃粉及其製品 諸種ノ挽粉 濃粉 麪類 湯波 蒟蒻 凍豆腐 凍蒟蒻等
- 第四十四種 味附 膏物及漬物類
- 第四十五種 肉類海草ノ貯藏 鱈節 鰯 乾鮑 海苔 昆布 佃煮 罐詰 雲丹 諸種ノ鹹製品等
- 第四十六種 牛乳製品 凝乳 乳油 乳餅 乳粉等
- 第四十七種 煙具及袋物 諸種ノ煙管 煙袋 煙管筒 懷中物等
- 第四十八種 紙及其製品 諸種ノ紙 色紙 短冊 擬革紙 油紙 澁紙 書筒筒 帳文匣 一開張 元結等
- 第四十九種 筆墨類 筆 墨 朱墨 印肉 墨汁 石筆 鉛筆 洋筆等
- 第五十種 皮革及其製品 馬具 革包 文匣 革帶 靴等
- 第五十一種 燃料 諸種ノ炭 附木 摺附木 燈心等

- 第五十二種 油蠟類 諸種ノ油 蠟 蠟燭 脂肪等
- 第五十三種 肥料 干鰯 鮭粕 油粕 骨粉等
- 第五十四種 木竹材
- 第五十五種 木竹籐製品及其漆塗蒔繪品類 指物 挽物 曲物 桶物 編物 組物等
- 第五十六種 角甲牙類ノ製品
- 第五十七種 蕨及草ノ製品 蓆表 蓆 編笠 繩 麥藁細工等
- 第五十八種 傘杖及履物 諸種ノ傘 杖 下駄 草履 鼻緒等
- 第五十九種 扇子及團扇
- 第六十種 提灯及「ランプ」類
- 第六十一種 齒磨及洗粉
- 第六十二種 刷子類
- 第六十三種 玩具類 花簪 鞠 碁 將棋 人形 獨樂 楊弓 押繪 造花 骨牌等
- 第六十四種 錦繪及寫真類
- 第六十五種 書籍新聞紙雜誌類

明治十七年六月二十三日農商務省第五號御達
 商標條例本年第十九號ヲ以テ布告相成候ニ付商標登錄願書明細書等ノ書式左ノ通相定候
 條此旨告示候事

書式 (用紙美濃紙) 書中字休ハ明瞭ナルヲ要ス

第一

商標登錄願

私(當會社當組)儀別紙明細書ニ記載ノ商標ヲ新規ニ相用ヒ度(去何年何月何日(使用久クシテ其年月日詳ナラサルモノハ年又ハ月ノ下ニ頃ノ字ヲ記スヘシ)ヨリ相用來候處)右ニ

付一切御成規ニ相觸レ候儀無之段確信致候間御登錄ノ上証書御下付相成度此段奉願候也

四百四十二

年月日

又ハ肩書前全斷
何會社
何社
氏名 印

何府地名 居住
何縣地名 寄留
族籍
業名

何府知事 某 印
何縣令 某 印

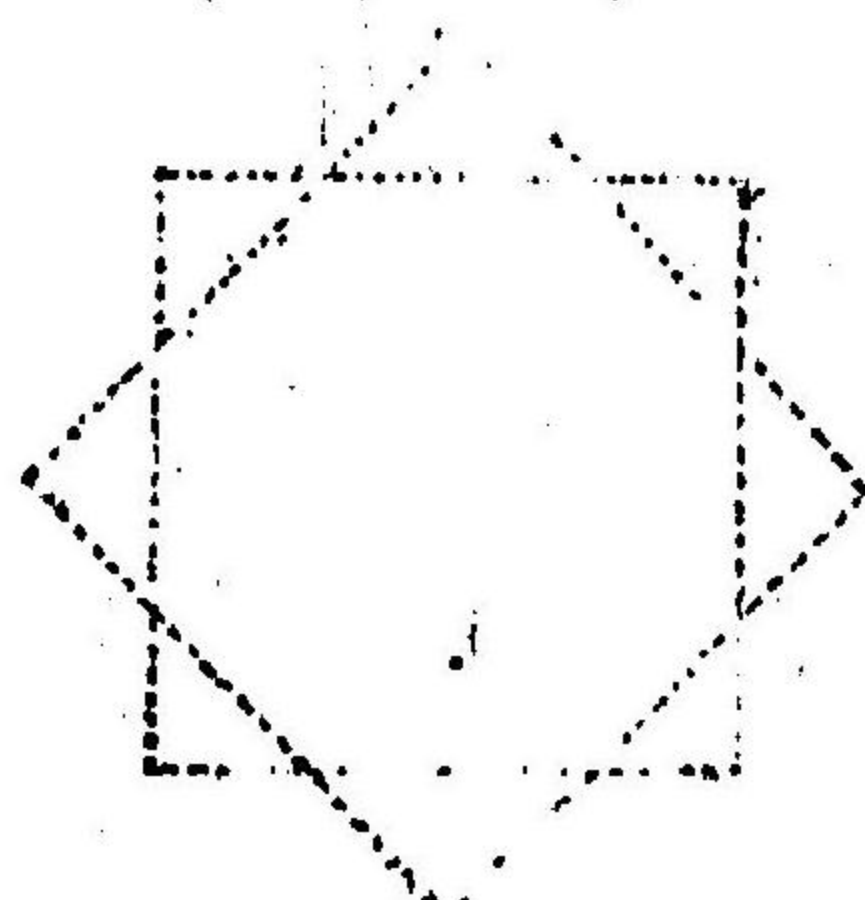
農商務卿某殿
前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事 某 印
何縣令 某 印

明細書(商標見本ハ明細書ニ附スル外ニ三枚ヲ出ス可シ)

一商標見本



此處ニハ用ヒント
欲スル商標ノ眞形
ヲ模寫シ又ハ印刷
シ又ハ印刷セルモ
ノヲ貼付スヘシ

- 一此商標ハ正中ニ何ノ圖形ヲ畫キ又ハ何ノ文字ヲ記シ其(上下)(左右)(角隅)(周圍)ニ何ノ圖形模様線何ノ文字ヲ記シ候
- 一此商標全形ノ内專用ノ要點ハ何ノ圖形又ハ文字ニ有之候
- 一此商標ノ何處ニハ某地何某(某會社某組)ノ文字ヲ何様ニ附記致候
- 一此商標ヲ用ヒ候物品ハ商標登錄手續第十一條第何種ノ何品又ハ何々品ニ有之候
- 一此商標ハ何品ニ畫キ又ハ記シ又ハ印刷シ上包又ハ製品(品目ヲ記スヘシ)ハ貼付又ハ結付又ハ製品(品目ヲ記ヘシ)ニ直ニ畫キ又ハ記シ又ハ印刷シ又ハ彫込ニ又ハ織込ニ候(商標ノ用ヒ方ハ成丈詳密ニ記スルヲ要ス)
- 右之通相違無之候也

年月日

又ハ肩書前全斷
何會社
何社
氏名 印

何府地名 居住
何縣地名 寄留
族籍
業名

農商務卿某殿

第三

登錄商標改正(兼用轉用)願

一何年何月何日付第何號登錄證

四百四十三

一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ヲ自今別紙明細書ニ記載ノ通改正(商標登錄規則第十一條第何種何品又ハ何々品ニ兼用又ハ轉用)致度右ニ付一切御成規ニ相觸レ候儀無之段確信致候間御登錄ノ上證書御下付相成度此段奉願候也

年月日

何府地名 居住
縣地名 寄留
族籍
業名
又ハ肩書前全斷
氏名 印
何會社
何組
社長
氏名 印

前書ノ通願出候ニ付進達候也
農商務卿某殿

何府知事 某 印

第四

登錄商標(讓分)與願
一何年何月何日付第何號登錄證
一第何種何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ヲ今般別紙約定書ニ從ヒ左記ノ何某(讓與(分與)致候間其旨御登錄相成度依

下

テ別紙登錄證明細書及約定書寫相添此段奉願候也

年月日

何府地名 居住
縣地名 寄留
族籍
業名
讓與人 氏名 印
分與人 氏名 印
又ハ肩書前全斷
何會社
何組
社長
氏名 印

前書ノ通願出候ニ付進達候也
農商務卿某殿

何府知事 某 印

第五

商標登錄證紛失(燒失流失)ニ付再渡願
一何年何月何日付第何號登錄證
一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處其登錄證何年何月何日何地ニ於テ紛失(火災ニ罹リ燒失又ハ水難ニ遭ヒ流失)候ニ付再渡相成度此段奉願候也

年月日

何府地名 居住
縣地名 寄留
族籍

業名

又ハ肩書前全斷 氏名 印

何會社 社印

何社組 社長 氏名 印

何社組 社長 氏名 印

農商務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事 某 印

第六

登錄商標續用願

一何年何月何日付第何號登錄證

一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標

前記ノ商標ハ私(協會社當組)所有ニ有之候處來ル何年何月何日ニテ專用年限相滿候得共
其後モ尙從前ノ通專用致度候ニ付更ニ御登錄相成度此段奉願候也

何府地名 居住

縣地名 寄留

族籍

業名

年月日

又ハ肩書前全斷 氏名 印

何會社 社印

何社組 社長 氏名 印

何社組 社長 氏名 印

何社組 社長 氏名 印

農商務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事 某 印

諸官令諸規則類纂 大日本官民必携 下卷尾

明治十七年四月廿一日版權御願
 同 十七年五月八日版權免許
 同 十七年七月一日出版發市



千葉縣平民

朝野文三郎

京橋區銀座四丁目三番地
 寄留

愛知縣平民

平山武四郎

京橋區木挽町三丁目十三番地

出版者

東京府平民

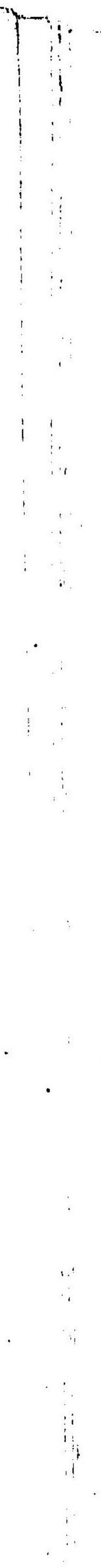
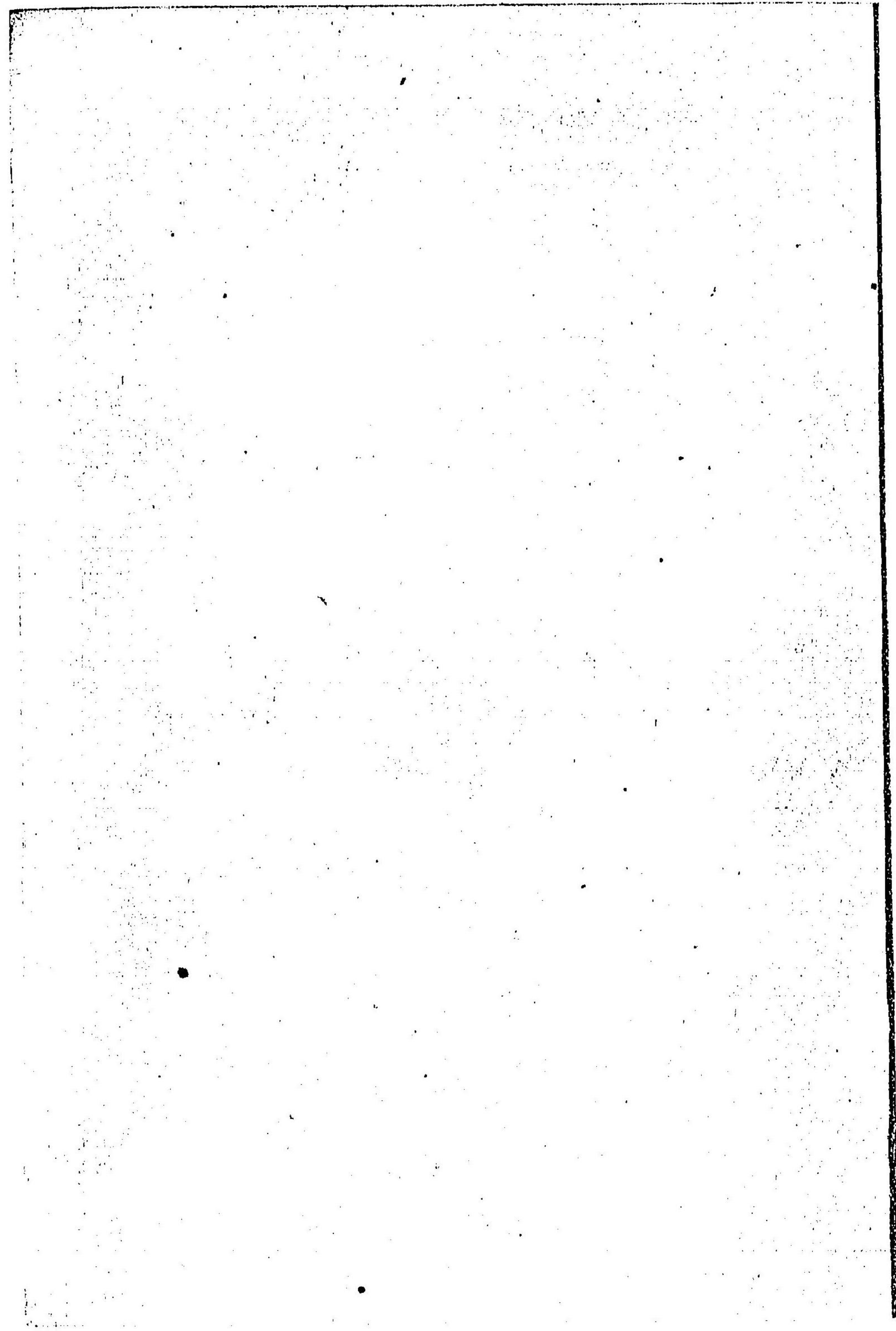
山中喜太郎

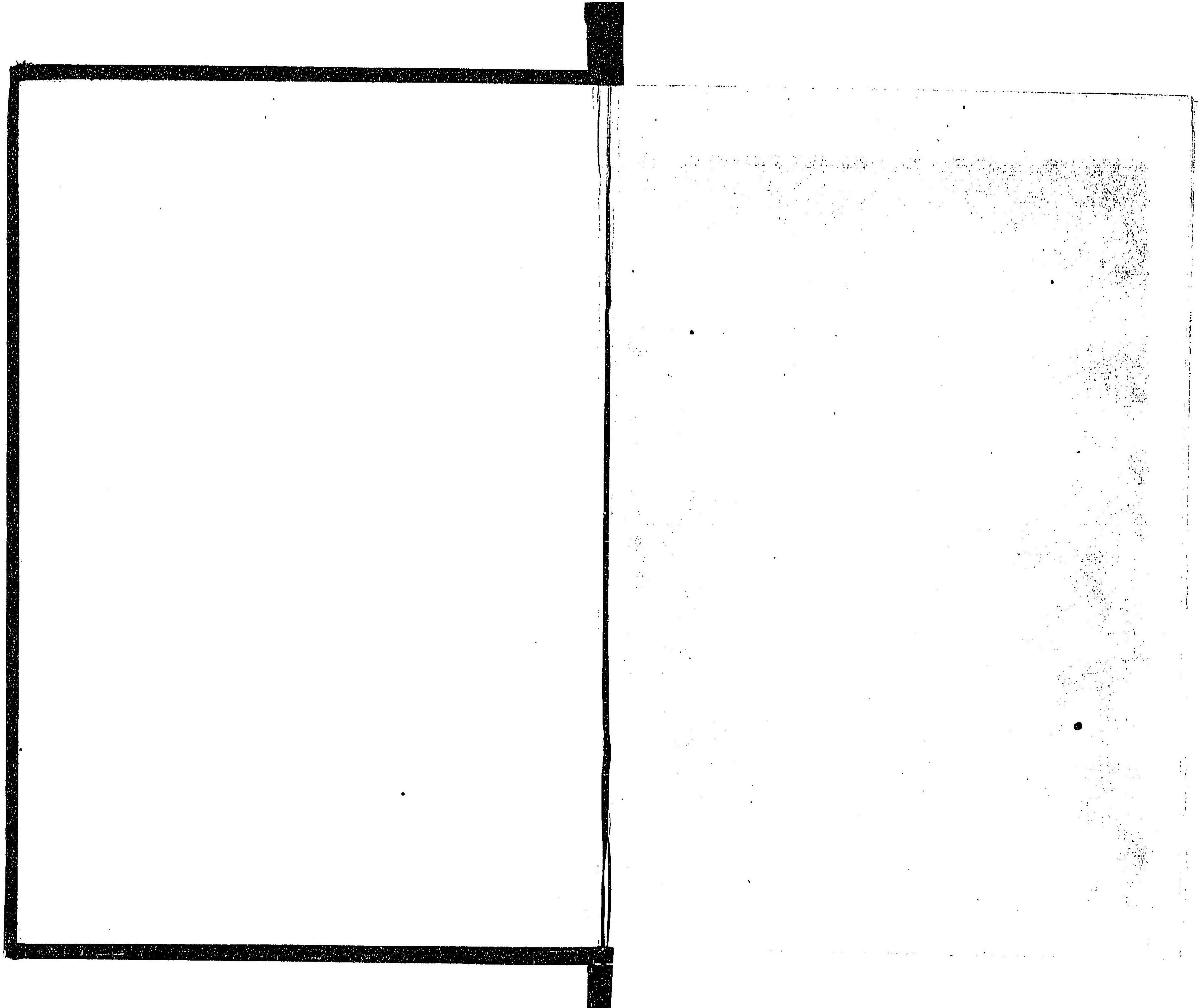
京橋區銀座四丁目三番地

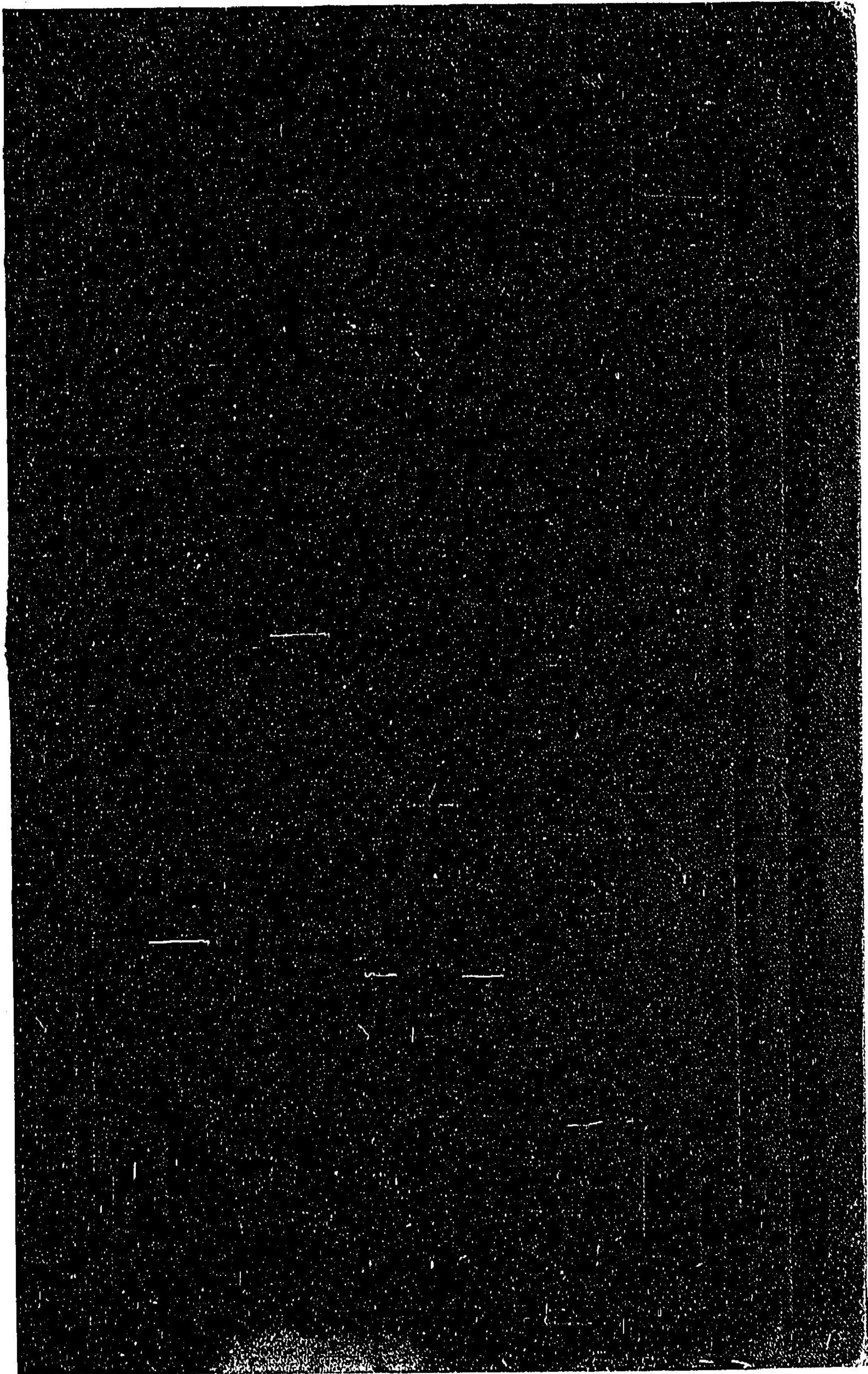
專賣書林

柳心堂山中喜太郎發兌書目概表

明治四書	後藤先生訓点十册	高等漢文記事論說文例	鹿野至良編輯
四書餘師	定價壹圓廿五錢	自由日本演說軌範	定價七十五錢
冠註文章軌範字類大全	定價壹圓廿五錢	自由西洋演說軌範	定價五十錢
冠註日本政記字類大全	定價七十五錢	李于鱗唐詩選	定價五十錢
冠註皇朝史略字類大全	定價七十五錢	世名家詩文	定價八十錢
冠註日本外史獨學大全	定價七十五錢	明民權家詩文	定價五十錢
四聲正韻字林大全三刻	定價八錢	南洲詩文	定價五十錢
補正字玉編	定價八錢	西戰陣詩文	定價五十錢
草字彙	定價八錢	北巡詩文歌	定價五十錢
千祿字書	定價八錢	維新名譽詩文	定價五十錢
官民必携東京節用	定價七十五錢	獄中憂憤餘情	定價五十錢
		明治筆蹟集	定價五十錢







禁電子式複写

031028-000-3

CZ-5-0177

大日本官民必携

朝野 文三郎/編

M17

BBC-0518



